

令和 5 年 度

雄武町教育委員会の活動状況に関する

点 検 ・ 評 価 報 告 書

令和 6 年 3 月

雄 武 町 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

今日、経済・社会構造の変化や少子・高齢化の進展など、教育を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、教育委員会においては、責任体制の明確化や体制の充実を図り、教育行政の中心的な担い手として、その役割を発揮していくことが求められています。

教育委員会の設置についての根拠法となる「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会の事務の管理・執行状況について、毎年、点検・評価を実施することが義務付けられており、平成20年度に施行され、今年度で16回目となります。

雄武町教育委員会としては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、ここに令和5年度報告書を作成いたしました。

雄武町教育委員会としては、次年度以降につきましても、点検・評価の実施を通じて、施策の効果の検証と改善を絶えず図りながら、教育施策の着実な推進に努めてまいりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年3月

雄武町教育委員会

教育長　　豊　田　通　敏

目 次

はじめに

第1章 教育委員会の活動状況

1	教育委員会の会議の開催状況	1
2	条例・規則等の制定改廃状況	4
(1)	教育関係条例	4
(2)	教育関係規則	4
(3)	教育関係規程	4
(4)	教育関係要綱	4
3	教育委員会委員の活動状況	5
4	審議会等審議概況	7
5	令和4年度予算の状況	8
(1)	教育費の予算	8
(2)	政策予算の内容	8
6	教育関係者の表彰等	12
(1)	雄武町教育功績者表彰	12

第2章 教育委員会の事務事業評価

1	令和4年度実施事業の評価結果	13
(1)	評価対象となる事務事業	13
(2)	事務事業評価結果	13
(3)	事務事業評価結果一覧表	14

資 料

- ・令和4年度実施事業分の事務事業評価調書

第1章 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議の開催状況

雄武町教育委員会の会議は原則として公開で、概ね月1回開催しています。

この会議において、教育長及び4名の教育委員が教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定など、様々な議題について審議します。

期 日	場 所	付 議 案 件 等
4. 4. 25	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 語学指導等を行う外国青年就業規則の一部改正について 雄武町コミュニティ・スクール協議会委員の委嘱について 雄武町教育支援委員会委員の任命について 雄武町社会教育委員の委嘱について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
4. 5. 23	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 雄武町特別支援教育連携協議会委員の委嘱について 令和4年度教科書展示会について 第10次雄武町社会教育中期計画策定について 雄武町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 雄武町社会教育委員の委嘱について (協議) 令和4年度小中学校運動会の開催について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
4. 6. 1 【臨時会】	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 雄武町立学校の廃校について
4. 6. 22	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和4年度転入生徒の在籍すべき学級について 令和4年度準要保護児童生徒の認定について 雄武町社会教育委員の委嘱について 雄武町社会教育中期計画策定委員会委員の委嘱について 雄武町図書館協議会委員の委嘱について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について

4. 8. 26	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和4年度教育費補正予算(第1号)について 雄武町立学校職員の自家用車の公用使用等の承認に関する規則の一部改正について (協議) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (承認) 語学指導等を行う外国青年就業規則の一部改正について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
4. 10. 4	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和4年度雄武町スポーツ賞表彰について 令和4年度雄武町文化賞表彰について (協議) 令和4年度小中学校学芸会・学校祭の開催について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
4. 11. 29	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 雄武町立小中学校通学区域の指定変更申請について 令和4年度教育費補正予算(第2号)について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
4. 12. 20	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和5年度新入学児童及び在学児童生徒の就学すべき学級(学校)について (協議) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について

5. 1. 27	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和5年度教育費予算要求について 令和4年度準要保護児童生徒(新入学児童生徒分)の認定について 学校給食費の改定について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
5. 2. 22	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 令和4年度教育費補正予算(第3号)について 令和5年度新入学児童の就学すべき学級(学校)について 令和5年度教育行政執行方針について (協議) 小・中・高の卒業式・入学式について (報告) 教育行政報告について 教育行政執行状況報告について
5. 3. 29	雄武町民 センター 会 議 室	(議案) 雄武町教育委員会事務局の名称変更に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について 語学指導等を行う外国青年就業規則の一部改正について 感謝状の贈呈について (報告) 教育行政報告について 令和4年度雄武町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告について 教育行政執行状況報告について

2 条例・規則等の制定改廃状況

令和4年度に制定改廃された教育関係条例の数は0件、教育関係規則の数は5件、教育関係規程の数は0件、教育関係要綱の数は1件、教育関係要領の数は3件です。

なお、関係事項については次のとおりです。

(1) 教育関係規則

番号	題 名	公布年月日	施行年月日
(4年) 4	語学指導等を行う外国青年就業規則の一部を改正する規則	4. 4. 25	4. 4. 1
5	語学指導等を行う外国青年就業規則の一部を改正する規則	4. 7. 25	4. 8. 26
6	雄武町立学校職員の自家用車の公用使用等の承認に関する規則の一部を改正する規則	4. 8. 26	4. 8. 26
(5年) 1	雄武町教育委員会事務局の名称変更に伴う関係規則の整備に関する規則	5. 3. 31	5. 4. 1
2	語学指導等を行う外国青年就業規則の一部を改正する規則	5. 3. 31	5. 4. 1

(2) 教育関係要綱

番号	題 名	公布年月日	施行年月日
(4年) 3	雄武町成人式実施要綱の全部を改正する要綱	4. 12. 20	4. 12. 20

(3) 教育関係要領

番号	題 名	公布年月日	施行年月日
(4年) 1	修学旅行の引率業務等に従事する雄武町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する要領	4. 7. 20	4. 7. 20
2	新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休業期間等における学校職員の在宅勤務実施要領の一部を改正する要領	4. 7. 26	4. 7. 26
(5年) 1	修学旅行の引率業務等に従事する雄武町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する要領	5. 3. 20	5. 3. 20

3 教育委員会委員の活動状況

教育委員会委員は、教育委員会議のほか、教育委員会や学校の諸行事等へ出席するなど、教育行政の運営について幅広い活動をしています。

日 付	活 動 内 容	委 員 名
(4年) 4月 4日 (月)	教職員辞令交付式	全員
4月 6日 (水)	雄武小学校入学式	教育長
	沢木小学校入学式	加賀
	雄武中学校入学式	教育長
4月 8日 (金)	雄武高等学校入学式	教育長
5月 9日 (月)	子ども育成会 あいさつ運動	全員
5月10日 (火)	子ども育成会 あいさつ運動	全員
5月28日 (土)	雄武中学校運動会	教育長
6月 5日 (日)	沢木小学校運動会	加賀
	共栄小学校運動会	教育長
6月11日 (土)	雄武小学校運動会	教育長
6月30日 (木)	学校づくり意見交換会	栗山、今、 加賀、河島

7月13日（水）	雄武高等学校存続対策協議会	全員
9月 7日（水）	子ども育成会 あいさつ運動	全員
9月 8日（木）	子ども育成会 あいさつ運動	全員
10月22日（土）	雄武中学校学校祭	教育長、今
10月29日（土）	雄武小学校学芸会	教育長、河島
11月12日（土）	共栄小学校学芸会	教育長、栗山
11月13日（日）	沢木小学校学芸会	教育長、加賀
（5年） 1月 8日（日）	令和5年二十歳の集い	全員
3月 1日（水）	雄武高等学校卒業式	全員
3月15日（水）	雄武中学校卒業式	教育長
3月22日（水）	雄武小学校卒業式	教育長
3月24日（金）	沢木小学校卒業式	教育長

4 審議会等審議概況

雄武町教育委員会に設置している主な審議機関は、次のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染症等の影響により、一部報告案件などは会議を開催せず書面開催としたものもありました。

名 称	委員 数	会 議 開催数	審 議 事 項		
			件 数	諮問・決議等	
				種別	年月日
教育支援委員会	8	2	・令和4年度生徒の在籍すべき学級について（転入）	諮問	4. 6. 16
				答申	4. 6. 16
			・令和5年度新入学児童及び在籍児童生徒の就学すべき学級について	諮問	4. 12. 8
				答申	4. 12. 8
			・令和5年度生徒の在籍すべき学級について（変更）	諮問	5. 2. 16
				答申	5. 2. 16
コミュニティ・スクール協議会	22	2	・各校のグランドデザインについて 他1件	審議	4. 5. 19
			各学校部会において学校の運営方針、学校評価等について協議を実施（各校2回開催）		
			・学校評価及び学校活動の報告について 他4件	審議	5. 2. 9
社会教育委員の会議	12	3	・令和4年度文化講演会について 他2件	審議	4. 5. 10
			・令和4年度雄武町文化賞について 他3件	審議	4. 9. 26
			・令和5年度社会教育事業について 他2件	審議	5. 3. 29
スポーツ推進審議会	5	1	・令和4年度スポーツ賞について 他2件	審議	4. 9. 29
スポーツ推進委員会	5	3	・令和3年度社会体育施設の状況について 他2件	審議	4. 6. 21
			・令和4年度社会体育事業について 他2件	審議	4. 10. 5
			・令和4年度社会体育事業について 他2件	審議	5. 3. 22
図書館協議会	5	2	・令和4年度図書館まつりについて 他3件	審議	4. 7. 29
			・令和4年度図書館事業について 他3件	報告	5. 3. 16
学校給食センター運営委員会	8	2	・令和3年度第3学期末学校給食運営状況報告について 他2件	報告	4. 7. 5
			・令和5年度雄武町学校給食費の改定について 他2件	審議	4. 12. 14
雄武町社会教育 中期計画策定委員会	8	2	・第10次雄武町社会教育中期計画の策定について 他2件	諮問	4. 10. 25
			・第10次雄武町社会教育中期計画について	審議	5. 3. 13
			・第10次雄武町社会教育中期計画（案）について（書面開催）	審議	5. 3. 28
			・第10次雄武町社会教育中期計画について	答申	5. 3. 30

5 令和4年度予算の状況

(1) 教育費の予算

令和4年度の教育費についての最終予算は409,559千円で、雄武町一般会計予算の最終予算総額の7,293,795千円に占める割合は、5.6%となっています。また、教育費の予算総額のうち、経常予算額は173,774千円でその割合は42.4%、政策予算額は235,785千円でその割合は57.6%となっています。

(2) 政策予算の内容

政策予算における費目ごとの事業内訳は、次のとおりとなっています。

(決算値ベース)

【総務管理費】

○教育相談員配置事業	4,519 千円
○教育施設等管理委託業務	31,179 千円
○語学指導を行う外国青年誘致事業	7,964 千円
○雄武高等学校存続対策事業	19,683 千円
○コミュニティ・スクール推進事業	139 千円
○車両運行業務民間委託事業	33,688 千円
○移住促進対策事業	2,447 千円

【小学校管理費】

○小学校教育備品整備事業	2,810 千円
○雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	1,200 千円
○要保護・準要保護児童援助事業	1,549 千円
○言語治療児童援助事業	367 千円
○学校環境整備事業	14,322 千円

【小学校教育振興費】

○小学校教育備品整備事業	1,050 千円
○学校図書整備事業	850 千円
○教職員教育振興事業	300 千円
○小学校教師用指導書購入事業	181 千円
○小学校児童検定チャレンジ促進事業	270 千円
○児童生徒用コンピューター整備（更新）事業	9,080 千円

【中学校管理費】

○中学校教育備品整備事業	390 千円
○要保護・準要保護生徒援助事業	1,463 千円
○学校環境整備事業	8,605 千円

【中学校教育振興費】

○中学校教育備品整備事業	750 千円
○学校図書整備事業	475 千円
○生徒教育振興事業	1,861 千円
○教職員教育振興事業	173 千円
○中学校生徒検定チャレンジ促進事業	230 千円
○中学校教師用指導書購入事業	26 千円
○児童生徒用コンピューター整備（更新）事業	14,558 千円

【社会教育総務費】

○武雄市児童交流事業	761 千円
○芸術文化公演事業	962 千円
○陶芸推進事業	1,173 千円

○生涯学習推進事業	125 千円
○社会教育関係団体活動費補助事業	650 千円
○家庭教育推進事業	36 千円
○学校支援活動推進事業	284 千円
○社会教育中期計画策定事業	356 千円

【図書館費】

○読書促進事業	7,758 千円
---------	----------

【保健体育総務費】

○社会体育団体活動費助成事業	540 千円
○雄武町スポーツ振興事業	1,300 千円

【体育施設費】

○社会体育施設委託業務事業	10,027 千円
○体育施設整備事業	18,161 千円

【学校給食費】

○学校給食センター調理業務委託事業	18,711 千円
○学校給食食育推進事業	500 千円
○学校給食子育て支援事業	12,961 千円
○学校給食センター設備等更新事業	1,351 千円

(参 考)

教育費最終予算の内容（項、目別予算）

（単位：千円）

項 及 び 目	予 算 額	項 及 び 目	予 算 額
1 教育総務費	104,901	4 社会教育費	35,569
1 教育委員会費	1,927	1 社会教育総務費	6,516
3 総務管理費	102,974	4 図書館費	17,512
2 小学校費	100,431	5 社会教育施設費	11,541
1 学校管理費	80,354	5 保健体育費	107,267
2 教育振興費	20,077	1 保健体育総務費	2,237
3 中学校費	61,391	2 体育施設費	39,079
1 学校管理費	36,449	4 学校給食費	65,951
2 教育振興費	24,942	予 算 額 計	409,559

6 教育関係者の表彰等

令和4年度の雄武町教育功績者表彰及び雄武町スポーツ賞の受賞者は、次のとおりです。

(1) 雄武町教育功績者表彰

(転出学校長)

北海道雄武町高等学校長	佐々木 光 明
-------------	---------

(2) 雄武町スポーツ賞表彰

(スポーツ奨励賞)

【個人】北海道雄武高等学校	3年	大 水 颯 太
雄武町立雄武中学校	3年	石 井 尚 樹
雄武町立雄武中学校	2年	焔 田 悠 介

(3) 雄武町文化賞表彰

【個人】雄武町文化連盟 前会長	高 橋 信 一
-----------------	---------

第2章 教育委員会の事務事業評価

1 令和4年度実施事業の評価結果

(1) 評価対象となる事務事業

令和4年度に実施した事務事業の評価対象件数は、政策予算事業について44件が対象となり、所管分野別の内訳としては、総務管理関係7件、学校教育関係17件、社会教育関係15件、図書業務関係1件、学校給食関係が4件となっています。

(2) 事務事業評価結果

事務事業の評価方法は、まず所管課ごとの自己評価である一次評価を行い、次にその評価結果にもとづいて副町長をはじめとした庁内の評価会議委員の評価としての二次評価を行います。さらに、重要な政策事業については、三次評価として町長による評価を行って、計画（PLAN）→ 実施（DO）→ 評価（CHECK）→ 改善（ACTION）のサイクル化（PDCAサイクル）により進行管理を行います。

評価対象となった44件の事業についての評価結果は、三次評価対象件数は0件、二次評価対象件数は10件であり、その他の34件については一次評価のみとなっています。評価結果の概要は次のとおりで、事業ごとの評価状況は次頁以降の評価結果一覧表のとおりとなっています。

なお、評価の実施年度は事業を実施した翌年度に行うため、令和4年度事業の調書は、令和5年度事務事業評価調書として作成されます。

評価段階	評価区分	今後の展開方法	件数
一次評価 〔自己評価〕	A 計画どおり事業を進めることが適当	継続／現状維持 終了	27 1
	B 事業の進め方等に改善が必要	継続／現状維持	5
	C 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要	終了	1
二次評価 〔評価会議による評価〕	A 計画どおり事業を進めることが適当	継続／現状維持 継続／内容の見直し・変更 継続／拡充	4 2 1
	B 事業の進め方等に改善が必要	継続／現状維持 継続／内容の見直し・変更	1 2
	C 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要		

(3) 事務事業評価結果一覧表

番号	事務事業名	事務事業概要	一次評価	二次評価	三次評価
			上段: 総合評価 下段: 今後の展開方向		
1	教育施設等管理委託業務	民間委託のメリットを活かし、教育委員会所管施設(町内小中学校・町民センター・スポーツセンター・武道センター・テニスコート等)の管理業務を民間委託する。	A 継続／現状維持		
2	教育相談員配置事業	教育に関して専門的な知識を有する教育相談員を配置するとともに、家庭が抱える様々な課題や問題に対応した取り組みを展開する。	A 継続／現状維持	A 継続／現状維持	
3	学校環境整備事業	学校施設の経年からなる外壁や塗装の剥離を始めとする危険個所の把握や、施設の適正な維持について状況調査を行い、調査結果を踏まえて計画的に補修工事を行う。	A 継続／現状維持		
4	へき地小学校巡回事務職員配置事業	小規模校における教頭職の未配置等に伴う教職員の少人数化に伴い、学校経営に支障を来している状況にあることから、学校事務における教職員の多忙感を解消するため、事務職員を配置する。	A 継続／現状維持		
5	雄武町文教地区基本構想策定事業	雄武町教育施設長寿命化計画に基づき、雄武小・中・スポーツ施設等が建設されている文教地区の教育施設について、現状や特性、町民ニーズ等を把握、整理の上、中長期的な視点で総合的に整備、改修を進めるための基本となる構想を策定する。	B 継続／内容の見直し・変更	B 継続／内容の見直し・変更	
6	雄武高等学校存続対策事業	地元高等学校の存続に向けた協議を行い、適宜状況に見合った取り組みを進めるほか、存続のため魅力ある学校づくりのため、各種助成を行う。	A 継続／現状維持		
7	車両運行業務民間委託事業	スクールバス4台、給食配送車1台、生涯教育バス1台の運行を民間に委託することにより、運行の円滑化を図る。	A 継続／現状維持	A 継続／現状維持	
8	言語治療児童援助事業	ことばの発達障がいを持つ児童の早期治療に向けた通級費用の一部助成により、保護者負担の軽減と地区唯一の西紋地区言語治療学級(ことばの教室)の運営・設備維持費の一部負担を行う。	A 継続／現状維持		
9	語学指導を行う外国青年招致事業	児童・生徒の国際理解力の向上並びに英語教育の内容充実に向け、外国語指導助手(ALT)2名を配置する。	A 継続／現状維持		
10	小中学校教師用指導書購入事業	教員の指導力向上による教育内容の充実を目的として、教員が使用する指導書を購入し小中学校に配備する。	A 継続／現状維持		

番号	事務事業名	事務事業概要	一次評価	二次評価	三次評価
			上段:総合評価 下段:今後の展開方向		
11	雄武町特別支援教育推進事業	学校教育法の特別支援教育の対応として、町内小中学校に在籍する、いわゆる「困り感」をもった児童生徒の学習活動をサポートするため、特別支援教育支援員を配置する。	A 継続／現状維持	A 継続／現状維持	
12	ふるさと教員配置事業	小中学校における多種多様な教育活動及び学校事情に応じた教育活動の円滑化を目的に、町独自で臨時教員1名を配置する。	A 継続／現状維持	A 継続／現状維持	
13	要保護・準要保護児童生徒援助事業	低所得者層の世帯に対して、児童生徒の教育の機会均等を図り、一定水準の義務教育を保障するため、就学援助費を支給する。	A 継続／現状維持		
14	児童生徒授業用コンピュータ整備(更新)事業	新学習指導要領に対応すべく、各校のICT環境を整備し、授業及び学校経営の安定化を図る。	A 継続／現状維持		
15	山村留学推進事業	へき地校の存続と教職員確保による教育内容の充実・発展・向上を目指すことを目的に、町内の山村留学制度実施校区に組織される地域協議会に対して、雄武町山村留学推進協議会を通じて運営費等の助成等活動の支援を行う。	C 終了		
16	小中学校教育備品整備事業	教育水準向上に向けた義務教材等の整備及び校務推進に必要な管理備品について整備(更新)する。	A 継続／現状維持		
17	生徒教育振興事業	中学校の部活動における中体連等の参加経費を負担する。	A 継続／現状維持		
18	学校図書整備事業	学校教育に欠かせない基礎的設備である学校図書館の図書について、教育課程において必要とされ、かつ時代にあった図書を計画的に配備し、児童・生徒の健全な教養を育成する。	A 継続／現状維持		
19	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	雄武町のすべての児童生徒の望ましい人格形成を目指し、町内の全教育機関が連携を図り、効率的かつ効果的な活動の展開により、雄武町教育目標達成に向けて、学校教育の振興と教職員の資質向上を図ることを目的に設置する協議会に対して運営費を助成する。	A 継続／現状維持		
20	教職員教育振興事業	都市部と比較して研修機会の少ない町内の学校に勤務する教職員に研修機会を与えとともに、校内研修や公開研究事業を促進し教職員の資質向上を図ることを目的に、先進地視察や校内研修、公開研究に係る費用の一部について助成を行う。	A 継続／現状維持		

誘導等

番号	事務事業名	事務事業概要	一次評価	二次評価	三次評価
			上段:総合評価 下段:今後の展開方向		
21	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	小中学生が受験する漢字検定試験及び英語検定試験の受験費用を助成し、児童生徒の語学力向上、学ぶ意欲の育成及び保護者負担の軽減を図る。	B 継続／内容の見直し・変更		
22	教職員用パソコン導入(更新)事業	学校における働き方改革に関する取り組みとして、ICTを活用した業務の効率化推進や負担軽減、および情報の共有化を図る。	A 継続／現状維持		
23	小中学校感染症対策事業	徹底した新型コロナウイルス感染症対策を実施することにより、クラスターの発生防止、感染リスク低減を図る。	A 終了		
24	学校運営協議会(コミュニティ・スクール)推進事業	保護者や地域住民等が積極的に学校運営に参画することにより、地域と学校の連携の強化、協働による学校づくりの体制構築を図る。	B 継続／現状維持	B 継続／現状維持	
25	生涯学習推進事業	町民のライフステージやニーズに応じ、生涯にわたり学び・学習の活動を続けていくために、講座及び学習会等を開催する。	B 継続／現状維持		
26	武雄市児童交流事業	児童を武雄市に派遣すること及び武雄市児童を受け入れることによって、異なる地域の気候や生活、文化に対する理解と寛容を養うために地域間の交流を図る。	B 継続／内容の見直し・変更		
27	家庭教育推進事業	休日の拡大に伴い、地域や家庭における教育の役割も増大しており、教育力の低下も叫ばれている中で、子育てをする上で最も大切な場である家庭での教育のあり方等、学習機会の支援を行う。	B 継続／現状維持		
28	社会教育関係団体活動費補助事業	社会教育を推進する中核的な組織(文化連盟・子ども育成会・PTA連合会)に対して補助を行い、地域の活性化を促進する。	A 継続／現状維持		
29	社会体育団体活動費助成事業	スポーツ少年団本部、単位スポーツ少年団、スポーツ協会及び加盟単位団体の活動を助長させるため補助金を交付する。	A 継続／現状維持		
30	雄武町スポーツ振興事業	各種スポーツの全国・全道大会へ出場する個人又は団体に対し、経費の一部を補助する。	A 継続／現状維持		

番号	事務事業名	事務事業概要	一次評価	二次評価	三次評価
			上段:総合評価 下段:今後の展開方向		
31	生涯スポーツ推進事業	少子高齢化や人口減少に伴い、町民がスポーツを親しむ機会及びスポーツ人口が減少していることから、各種スポーツ大会やスポーツ教室などを複合的・横断的に開催し、スポーツ活動の活性化を図る。	B 継続／内容の見直し・変更	B 継続／内容の見直し・変更	
32	芸術文化公演事業	舞台芸術の機会に恵まれない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに芸術への理解を深め、地域文化の活性化を図る。	B 継続／現状維持		
33	陶芸推進事業	地域に根付いてきた陶芸文化をより多くの町民がふれあうことが出来るよう、施設の管理体制を整え、維持管理を行うことで利用の拡大を図る。	B 継続／現状維持		
34	雄武町芸術文化振興事業	本町の文化・芸術活動の振興を図るため、発表会・大会に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。	B 継続／現状維持		
35	学校支援活動推進事業	地域の教育力活用を通じて地域全体で学校教育を支援する体制を構築し、学校の教育力を向上させるとともに、学校支援ボランティア活動を通じた地域コミュニティの活性化を推進する。	A 継続／現状維持		
36	社会教育中期計画策定事業	総合計画に掲げる基本施策及び単位施策に沿った、社会教育分野における今後5年間の実施計画を策定する。	A 継続／現状維持		
37	町民センター施設整備事業	利用者の安全性確保及び利便性の向上のため、老朽化部分の計画的な整備を行う。	A 継続／拡充		
38	体育設備整備事業	スポーツ活動の拠点となる施設を良好な状態に維持することで、スポーツ活動の活性化を図る。	A 継続／拡充		
39	社会体育施設委託業務事業	施設の適正且つ効率的な維持管理を図り、利用者に対してより良いサービスの提供を図られる。	A 継続／現状維持		
40	読書促進事業	多様な学習目的と複雑かつ高度化する生涯学習ニーズ及び利用者の利便性の向上に対応するため、図書館蔵書の整備を行う。	A 継続／拡充		

番号	事務事業名	事務事業概要	一次評価	二次評価	三次評価
			上段: 総合評価 下段: 今後の展開方向		
41	学校給食子育て支援事業	学校給食費費保護者負担金について助成を行うことにより、子育てに係る保護者の負担を軽減し、安心して子育てできる環境づくりを図る。	A 継続／現状維持		
42	学校給食調理業務委託事業	調理業務民間委託により衛生管理や調理作業の効率性が向上し、適正なコストで安全・安心な学校給食を提供する体制の構築を図る。	A 継続／現状維持		
43	学校給食食育推進事業	学校指導要領の特別課程に位置付けられている学校給食における、食育と地産地消の観点からの啓発の推進を図る。	A 継続／現状維持		
44	学校給食センター設備等更新事業	学校給食センターの設備・備品のうち、老朽化したものについて適宜更新を行う。	A 継続／現状維持		

資 料（事務事業評価調書）

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010090

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		教育施設等管理委託業務	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係		#N/A	
事業指標		教育施設等の適切な維持管理			#N/A	
事業目標		委託対象全施設	ハート・/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加		無	関係例規・法令名		無	
町民協働		無	関係個別計画名		無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
教育委員会所管施設の維持管理業務の委託		維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託
計画内容		・小中学校全校 ・町民センター ・テニスコート ・スポーツセンター ・武道センター ・図書館			
計画事業費	事業費(千円)	167,445	32,938	35,068	31,600
	財源	国庫支出金 道支出金 地方債 その他			
実績事業費	事業費(千円)	167,445 164,580	32,938 31,900	35,068 34,980	31,600 31,179
	財源	国庫支出金 道支出金 地方債 その他			
関連事項	特定財源の名称	164,580	31,900	34,980	31,179
		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
関連事項	【評価・実績】	教育委員会所管施設の維持 管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持 管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持 管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持 管理業務の民間委託
		※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
関連事項	第5期計画からの継続 (継続有り)	委託対象全施設	委託対象全施設	委託対象全施設	委託対象全施設
	年度目標値 年度達成率	97%	97%	100%	99%
関連事項	後期計画への継続 (継続有り)	19%	38%	59%	80%
	備考				

事業名	教育施設等管理委託業務	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	総務管理係長	川口 敦史

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		各施設の適切な維持管理	
抱える課題やニーズ	児童・生徒、地域住民 民間活力を活用した施設の維持、管理	指標(指標計算式/解説)		目 標 年 度 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	行政事務の効率化及び、町民サービスの低下を招くことのない民間活力を活用した施設の維持、管理	① 管理委託施設数		目 標 年 度	令和4 年度
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	児童・生徒等の学校環境及び町民の文化・スポーツ振興のための環境の充実	②		目 標 年 度	10 施設
				実 績 値	10 施設
				達 成 度	100.0 %
				目 標 年 度	年 度
				実 績 値	
				達 成 度	
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間委託	民間へ委託することにより行政事務の効率化を図った。また、施設管理においては、急な欠員などの雇用問題についても、民間企業の柔軟さが生かされた。			

■事務事業の評価(Check)	
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)	
必要	☐ 業務的なもの
必要/概ね必要	☐ 全部
必要あり	☐ 一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	
有効	☒ 設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☒ 達成
有効あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)	
効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的	☒ 事業費抑制
効率的あり	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☐ その他

(4)事務事業の公平性	
公平	判断の理由
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある
公平でない	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)	

■総合評価【A～D】	
A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等	
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等	
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等	
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等	
自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)
A	町長評価(三次評価)

委託により事務の効率化やコスト削減が図られ、管理面においても直営と遜色なかったことから、目標は達成されたと判断します。	
---	--

今後の展開方向 (Action)	
---------------------	--

継続/現状維持	
委託先である民間企業において受注体制を構築しており、直営への現状の変更は困難であることから、事業の継続は必須であると考えます。	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010150

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		教育相談員配置事業	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係		#N/A	
事業指標		学校教育や家庭教育に関する相談に対応するための相談員の配置			#N/A	
事業目標	1名		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加			関係例規・法令名		無	
町民協働	無		関係個別計画名		無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	教育相談員の配置 1名	教育相談員の配置 ・賃金 3,780千円 ・共済費 3,565千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	教育相談員の配置 ・賃金 3,780千円 ・共済費 3,565千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	教育相談員の配置 ・賃金 3,780千円 ・共済費 3,573千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円 ・車両購入 1,210千円	教育相談員の配置 ・賃金 3,780千円 ・共済費 3,573千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	教育相談員の配置 ・賃金 3,819千円 ・共済費 3,587千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円
	事業費(千円)	23,637	4,470	5,688	4,478	4,531
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	22,000	4,400	4,400	4,400	4,400
	その他	0				
	一般財源	1,637	70	1,288	78	131
	事業費(千円)	23,428	4,462	4,393	4,447	4,387
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
実績事業費	地方債	21,800	4,400	4,400	4,400	4,300
	その他	59	11	11	11	15
	一般財源	1,569	51	82	36	72
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
関連事項	過疎対策事業債(ソフト)	【評価・実績】	教育相談員 1名配置	教育相談員 1名配置	教育相談員 1名配置	教育相談員 1名配置
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1名	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	年度達成率	100%	1名	1名	1名	1名
	全体達成率	19%	98%	101%	99%	97%
	備考		37%	62%	81%	99%

事業名	教育相談員配置事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	総務管理係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童、生徒、保護者、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	相談員配置数
抱える課題やニーズ	いじめや不登校、非行などの課題解決と未然防止のための仕組みづくりが必要である。	指標(指標計算式/解説)	① 相談員配置数 目標年度 実績年度 達成率 令和4年度 1人 1人 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	総合的に相談を受け、各関係者と協議し課題を解決することのできる体制の整備を図る。	②	目標年度 実績年度 達成率 年度
その結果、どのような成果を実現したのか ※成果＝目的	家庭や学校が抱える様々な問題の解決により、児童生徒の健全な育成が図られる。		
内容(どのような手段で何を行ったか)	相談員の配置	教育に関して専門的な知識を有し、地域及び学校現場の実情も把握している適任者を配置し、各種相談業務の対応を行いました。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や冗冗しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	児童、生徒の健全育成はもとより、地域、学校及び行政とのつながりの拠点としても必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要	☐	全部	
必要あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	教育相談員を配置し、各種相談業務に対応したことと期待する効果が得られたと判断します。
有効/概ね有効	☐	達成	
有効あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	判断の理由	教育相談員を配置し、教育相談を一元的に受けることで、教育活動を円滑に推進する事業であると判断します。
効率的/概ね効率的	☐	事業費抑制	
効率的あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	教育相談を一元的に受けます。
公平/概ね公平	☐	受益者負担がある	
公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
相談員を配置したことにより、支援等を必要とする児童生徒及び保護者へ対応できたことから、本事業の目標は達成できたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
教育相談を一元的に受けることで、円滑な教育活動の推進につながる。ことから、本事業を継続することが望ましいと考えます。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010160

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分年度	3	単独自治事務(その他)	
事業名	学校環境整備事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係	10	建設水道課	
事業指標	学校施設の適正な維持管理			11	建設水道課(建築)	
事業目標	小学校4校・中学校1校		ハート・ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 内 容		平成・30 年度	令和・元 年度	令和・2 年度	令和・3 年度	令和・4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	・学校施設の経年からなる老朽化等に対する改修工事等の実施 ・小規模修理・改修工事の実施 (各学校施設修理改修事業と統合)	雄武中学校トイレ改修工事 23,770千円 雄武中学校キュービクル内高圧機器取替工事 8,600千円 小規模修理・改修工事 一式 1,500千円	豊丘小学校トイレ改修工事 10,130千円 豊丘小学校体育館暖房機更新工事 4,800千円 小規模修理・改修工事 一式 2,200千円 学校プール改修工事 28,050千円【R2へ繰越】 雄武小学校暖房機改修工事 3,290千円	沢木小学校トイレ改修工事 12,480千円 共栄小学校トイレ改修工事 4,000千円 町内小学校遊具改修工事(沢木小) 3,700千円 小規模修理・改修工事 一式 3,000千円 学校プールシート取替工事 9,800千円 雄武中学校体育館屋根等改修工事 31,850千円	小規模修理・改修工事 一式 3,000千円 雄武小学校周辺整備工事 7,000千円 沢木小学校屋上防水改修工事 12,000千円 雄武小学校体育館照明LED改修工事 7,270千円 雄武中学校体育館改修工事 3,380千円 雄武小中学校授業用インターネット回線整備委託 2,228千円	小規模修理・改修工事 一式 3,000千円 ・可動式黒板設置工事 8,150千円 ・雄武小学校暖房機改修工事 4,719千円
	事業費(千円)	197,917	33,870	48,470	64,830	15,869
	国庫支出金	16,738	7,900	3,345	5,493	
	道支出金	0				
	地方債	37,400			37,400	
実 績	事業費(千円)	79,024	25,970	13,785	10,000	15,869
	国庫支出金	205,504	33,715	31,340	11,937	19,878
実 績	国庫支出金	9,937		19,546	92,620	33,696
	道支出金	0		3,345	6,592	
実 績	地方債	46,900			36,400	10,500
	その他	41,238	9,936	13,302	10,000	8,000
実 績	一般財源	107,429	23,779	2,899	39,628	15,196
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
関 連 事 項	学校施設環境改善交付金	雄武中学校キュービクル内高圧機器取替工事	豊丘小学校トイレ改修工事	沢木小学校トイレ改修工事	雄武小学校周辺整備工事	雄武小学校NW環境整備委託
	ふるさと応援基金繰入金	小規模修理・改修工事 一式	雄武中学校体育館暖房機更新工事	共栄小学校トイレ改修工事	沢木小学校屋上防水改修工事	沢木小学校NW環境整備委託
	公共施設等適正管理	小規模修理・改修工事 一式	雄武小学校暖房機改修工事	町内小学校遊具改修工事	雄武中学校体育館照明LED改修工事	中学校NW環境整備委託
	推進事業債		小規模修理・改修工事 一式	小規模修理・改修工事 一式	雄武中学校体育館改修工事	雄武小学校暖房機改修工事
			※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
関 連 事 項	第5期計画からの継続 (継続有り)	小学校4校・中学校1校	小学校4校・中学校1校	小学校4校・中学校1校	小学校2校・中学校1校	小学校2校・中学校1校
	年度目標値	100%	40%	143%	97%	163%
	年度達成率	17%	27%	74%	91%	104%
関 連 事 項	後期計画への継続 (継続有り)					
	全体達成率					
関 連 事 項	備考					

事業名	学校環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	総務管理係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	学校関係施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学校施設の適切な維持管理向上
抱える課題やニーズ	安全で安心な教育環境を維持するため、老朽箇所の整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 3校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができる環境を整備するとともに、施設の延命化を図る。	① 町内学校施設	実績年度 3校
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	児童・生徒、保護者及び学校関係者が安全で安心でできる教育環境づくりを推進する。	②	達成度 100.0 %
内容(どのような手段で何を行ったか)	学校要望調査の実施	目標年度 令和4年度 3校	実績年度 3校
	状況把握	達成度 100.0 %	達成度 100.0 %
	委託発注、工事施工	目標年度 令和4年度 3校	実績年度 3校

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原単位による対応可能性)

必要	☐	業務的なもの	学校施設を町が維持管理及び整備していくことは設置者としての責務であり、また、時代に即した学習環境の提供や児童生徒の安全面を最重視し保護者も安心でできる学校生活環境を提供するためには本事業の実施は必要であると判断します。
必要/概ね必要	☐	全部	
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	学習環境の充実が図られたものと判断します。
有効/概ね有効	☐	達成	
有効/概ね有効/課題あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	☒	判断の理由	必要な委託及び工事の精査、費用積算についても効率性を重視しています。
効率的/概ね効率的	☐	事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☐	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	学習環境及び学校生活環境の整備は、学校からの要望を考慮しつつ経年劣化などを考慮しながら順次実施しており、1校に特化したものではないことから、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐	受益者負担がない	
公平/概ね公平/課題あり	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

共栄小学校は令和6年3月に閉校を迎えることとなるため、本事業における大規模改修工事等の実施はありませんが、適宜、修繕等の必要な措置を講じています。

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
児童生徒が安全かつ時代に即した教育を受けるための環境づくりを計画以上に進めることが出来たことから、本事業の目標は達成できたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持
令和元年度に策定した教育施設長寿命化計画等に基つき、計画的に事業を進めることが必要であるため、本事業を継続する必要があります。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010210

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	へき地小学校巡回事務職員配置事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	事務職員配置人数				#N/A	
事業目標	1人		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
へき地小学校への事務職員の配置		事務職員の配置	事務職員の配置	事務職員の配置	事務職員の配置
計画内容	事業費(千円)	15,223	3,000	3,591	2,632
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	37	10		7
	事業費	15,186	2,990	3,591	2,625
	一般財源	10,812	2,431	1,967	2,569
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
実績事業費	財源				
	地方債				
	その他	27	7	6	6
	事業費	10,785	2,424	1,961	2,563
	一般財源				
	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	雇用保険納付金				
関連事項	【評価・実績】		巡回事務職員1人の配置 (豊丘小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)
		※事務事業評価結果 Bー継続／内容の見直し・変更	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)
		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)
		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)
		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)	巡回事務職員1人の配置 (共栄小学校)
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1名	1名	1名	1名
	年度達成率	40%	81%	55%	98%
	全体達成率	8%	24%	54%	71%
後期計画への継続 (継続有り)					
備考					

事業名	へき地小学校巡回事務職員配置事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者	作成者 職氏名	総務総務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業名	事業の目的・内容(Plan・Do)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事務職員未配置校に対する配置
へき地小学校	へき地小学校		
抱える課題やニーズ	児童数の減少のため教職員の定数減により、小規模校への事務職員が未配置となる。	① 事務職員配置人数	目標年度 令和4年度 1人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町費負担の事務職員を配置することにより、各教職員が職位に応じた業務を遂行できる。	達成度	1人 100.0 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	適正な学校経営が図られる。	目標年度 令和4年度 1人	
	各学校の状況把握	達成度	
内容(どのような手段で何を行ったか)	事務職員の配置決定	達成度	
	小中学校教職員の配置基準により、町内小中学校の教職員配置を把握し、巡回事務職員配置の判断をしています。		
	事務職員が未配置となる共栄小学校に配置することができた。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	業務的なもの	教頭職、事務職員等の道員職員が未配置となる学校については、校長職をはじめ、教職員に負担が生じることとなり、本来の職務以外の負担の軽減を図るため、町が担う必要があると判断します。
必要／概ね必要	☐	全部	
必要あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	町費事務職員を配置することにより、各教職員が職位に応じた業務の遂行を可能とする体制が整備されていると判断します。
有効／概ね有効	☐	達成	
有効あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	判断の理由	学校に町費事務職員を配置することによって未配置校の学校経営が適切に取り進められたことから、リコストに見合った効果が得られたものと判断します。
効率的／概ね効率的	☐	事業費抑制	
効率的あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	本事業によって、全小中学校に事務職員が配置されることとなるため、公平であると判断します。
公平／概ね公平	☐	受益者負担がある	
公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
適切な学校経営が図られたことから、事業の目標は達成されたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持	
令和5年度においても、共栄小学校の道員事務職員は未配置であり、教頭も未配置であることから、本事業は継続する必要があると考えます。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12010224

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	後期実施計画での予定内容
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	・住民アンケートの実施
事業名		雄武町文教地区基本構想策定事業	見直し年度			・教育施設の現況調査の実施
事業期間		令和3年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	・先進地調査の実施
事業主体		雄武町	関係課		#N/A	・住民ワークショップの実施
事業指標		内部会議開催	ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
事業目標		調査研究	関係例規・法令名	無		
町民参加		無	関係個別計画名	有	雄武町教育施設長寿命化計画	
町民協働						

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
雄武町文教地区基本構想の策定					調査研究	調査研究
計 画 内 容	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	事業費	0				
	一般財源	0				0
	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	0				
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
関 連 事 項	【評価・実績】					
	事業費	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	#DIV/0!	#DIV/0!	Cー継続／内容の見直し・変更 会議開催	※事務事業評価結果 Bー継続／内容の見直し・変更 内部会議開催
	後期計画への継続	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		備考				

事業名	雄武町文教地区基本構想策定事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者	作成者 職氏名	総務管理係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町、教育委員会など
抱える課題やニーズ	雄武小中学校をはじめ、スポーツセンターなど多くの施設が建替えを含む見直し時期を向かえていることから、雄武町文教地区基本構想の策定に向け、将来的な学校の在り方を整理する必要がある。
どのような状態になることを目指したのか(意図)	関係機関が各々の見地から意見を出し合える状態を目指した。
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	各関係機関との協議を交わしまとめることにより、雄武町文教地区基本構想策定のため の教育委員会の基本方針の策定したい。
内容(どのような手段で何を 行ったか)	研修 教育委員研修会の開催

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
必要あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	☐	設定した目標値の達成状況
有効／概ね有効	☐	達成
有効あり	☐	ほぼ達成
	☒	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	☐	判断の理由
効率的／概ね効率的	☐	事業費抑制
効率的あり	☐	人員削減
	☐	時間短縮・作業軽減
	☒	その他

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由
公平／概ね公平	☐	受益者負担がある
公平でない	☐	受益者負担がない
	☐	受益が一部に偏る
	☒	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
コロナ禍のため、各関係機関における会議自体が書面開催するなど活動の鈍化の影響により、協議する場の開催には至らなかったが、教育委員とは一定の情報を共有できた。		

今後の展開方向
(Action)

継続／内容の見直し・変更

教育委員会の基本方針を策定し関係機関へ案言するなどして、意見を交わすための関係機関の雄武町文教地区基本構想策定に必要な情報の足掛かりや資料を提供する。		
---	--	--

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12010240

政策目録	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】E教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	4	魅力ある高校づくりに向けた支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	雄武高等学校存続対策事業		見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A	
事業指標	雄武高等学校の存続に向けた各種施策の実施		ハート／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	雄武高等学校入学者数20人の確保		関係例規・法令名	有	雄武高等学校遠距離通学生徒通学費等補助・生徒資格取得支援助成交付要綱・雄武高等学校卒業生奨学金等条例
町民参加	有		関係個別計画名	無	
町民協働					

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	雄武高等学校の存続に向けた協議・取組を進める	遠距離通学生徒通学費補助 1,400千円 部活動関係振興事業補助 1,400千円 就学支援補助 900千円 資格取得受験費用の助成 200千円 見学旅行参加助成金 750千円	遠距離通学生徒通学費補助 1,400千円 部活動関係振興事業補助 1,400千円 就学支援補助 2,880千円 資格取得受験費用の助成 200千円 見学旅行参加助成金 1,200千円 給付型奨学金 5,040千円 奨学金条例制定 奨学金基金積立 100,000千円 貸与型奨学金 16,000千円	遠距離通学生徒通学費補助 1,400千円 部活動関係振興事業補助 1,400千円 就学支援補助 2,400千円 資格取得受験費用の助成 200千円 見学旅行参加助成金 1,200千円 給付型奨学金 6,840千円 就学貸付金 7,000千円 ICT環境整備支援 440千円	遠距離通学生徒通学費補助 1,400千円 部活動関係振興事業補助 1,400千円 就学支援補助 2,640千円 資格取得受験費用の助成 300千円 見学旅行参加助成金 1,600千円 給付型奨学金 9,360千円 就学貸付金 8,000千円 ICT環境整備支援 1,200千円 雄武高校卒業生新生活応援給付金 1,000千円
	事業費(千円)	201,070	122,600	20,880	26,900
計 画 事 業 費	財源	国庫支出金 7,500 道支出金 0 地方債 15,000 その他 127,240			
	事業費	51,330	4,650	5,000	5,000
実 績 事 業 費	財源	国庫支出金 169,093 道支出金 7,425 道支出金 0 地方債 14,500 その他 12,780	100,000 22,600 109,454 7,425	8,940 7,040 16,527	12,360 9,540 19,815
	事業費	134,388	109,454	7,489	
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・財政調整基金繰入金 ・奨学金繰入金 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 ・過疎対策事業債(ソフト)	部活動関係振興事業補助1,400千円 遠距離通学生徒通学費補助 275千円 入学支援助成金 3,119千円 見学旅行参加助成金 700千円 奨学金貸付金 3,600千円 奨学金基金積立 100,000千円 ※事務事業評価結果 B-継続／拡充	部活動関係振興事業補助 1,400千円 遠距離通学生徒通学費補助 576千円 入学支援助成金 2,824千円 見学旅行参加助成金 1,300千円 奨学金貸付金 2,000千円 奨学生就学貸付金 4,590千円 生徒学習用端末整備支援補助 7,425千円 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	部活動関係振興事業補助 1,400千円 遠距離通学生徒通学費補助269千円 入学支援助成金 2,580千円 見学旅行参加助成金 1,080千円 奨学生就学貸付金 500千円 給付型奨学金 9,360千円 就学貸付金 8,000千円 奨学金基金積立 216千円 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	部活動関係振興事業補助 1,400千円 遠距離通学生徒通学費補助269千円 入学支援助成金 2,580千円 見学旅行参加助成金 1,080千円 奨学生就学貸付金 500千円 給付型奨学金 9,360千円 就学貸付金 8,000千円 奨学金基金積立 216千円 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 62%	20人	20人	20人
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 1%	89%	79%	74%
		全体達成率	56%	66%	84%
		備考欄			

事業名	雄武高等学校存続対策事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	総務管理係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	生徒・地域住民・雄武高等学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	雄武高等学校入学人数20人の確保
抱える課題やニーズ	北海道教育委員会が少子化を背景として策定した「新たな高校教育に関する指針」により、小規模校の存続が危惧されている。	指標(指標計算式／解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域及び関係機関との連携を図り、地域の学校として存続を図る。町内外からの生徒数を確保することにより、入学人数減少の抑制を図り、生徒数を維持する。	①	雄武高等学校入学人数 目 標 年 度 目 標 値 20 人 実 績 年 度 実 績 値 22 人 達 成 率 110.0 %
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	雄武高等学校を存続させ、雄武町内における「教育の場」を確保するとともに、地域とのつながりを深める。	②	目 標 年 度 目 標 値 実 績 年 度 実 績 値 達 成 率

内容(どのような手段で何を行ったか)	入学に関わる費用に対する助成 卒業生奨学金等 各種支援	入学生徒の保護者に対する制服等購入代金に対する助成を行いました。 希望する卒業生に対し、就学貸付金の貸与と奨学金の給付を行いました。 町外生徒に対するバスの定期代の補助、各部活動における遠征宿泊の一部補助及び備品購入等に係る補助、資格取得受験費用の助成、見学旅行に係る支援を実施しています。
--------------------	-----------------------------------	---

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
必要／概ね必要	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	雄武高等学校への入学者の確保は地域における雄武高校の存続対策として必要不可欠であります。各種支援事業の展開により有効性が保たれているものと判断します。
有効／概ね有効	☒ 達成	
有効／概ね有効	☐ ほぼ達成	
有効／概ね有効	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに昇合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	町外生徒については、補助の有無を入学の際の判断材料としていたものと思料されることから、コストに昇合った効果が得られていると判断します。また、在学に対する助成については雄武高等学校で取りまとめを行っていることから、保護者の負担軽減に繋がっています。
効率的／概ね効率的	☐ 事業費抑制	
効率的／概ね効率的	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☒ 時間短縮・作業軽減	
効率的／概ね効率的	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	生徒数の維持を図らなければ、高校存続に大きく影響することから、公平性の観点からは問題がないと判断します。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がない	
公平でない	☐ 受益が一部に偏る	
公平でない	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各種支援策が、入学人数確保に一定の成果があったと判断し、事業の目標が達成できたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
生徒確保を図るため、引き続き事業を継続する必要があると判断します。		

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 03030080

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】日協働によるまちづくりの推進～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	効果的・効率的な行政経営	事業優先度	A		
単位施策	1	計画行政の推進	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	車両運行業務民間委託事業		見直し年度			
	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
	事業主体 雄武町		関係課	5	福祉給付課	
	事業指標 スクールバス等の管理運行業務				#N/A	
	事業目標 委託車両8台の管理運行		ハード／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加			関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	スクールバス等8台の運行業務の民間委託	スクールバス等8台の運行管理 業務の民間委託	スクールバス等8台の運行管理 業務の民間委託	スクールバス等8台の運行管理 業務の民間委託	スクールバス等8台の運行管理 業務の民間委託	スクールバス等8台の運行管理 業務の民間委託
	事業費(千円)	177,552	33,080	36,692	37,000	37,000
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	177,552	33,080	36,692	37,000	37,000
	事業費(千円)	176,485	34,302	35,928	36,217	36,554
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		スクールバス4台、給食配送車2台、生涯バス、福祉バス、及び臨時バス等の運行管理の一括民間委託委託料 32,562千円 車両整備 922千円	スクールバス4台、給食配送車2台、生涯バス、福祉バス、及び臨時バス等の運行管理の一括民間委託委託料 32,926千円 車両整備 1,377千円	スクールバス4台、給食配送車2台、生涯バス、福祉バス、及び臨時バス等の運行管理の一括民間委託委託料 35,200千円 車両整備 728千円	スクールバス4台、給食配送車1台、生涯バス、福祉バス、及び臨時バス等の運行管理の一括民間委託委託料 35,200千円 車両整備 1,017千円	スクールバス4台、給食配送車1台、生涯バス、福祉バス、及び臨時バス等の運行管理の一括民間委託委託料 35,420千円 車両整備 1,134千円
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	委託車両8台の管理運行	委託車両8台の管理運行	委託車両8台の管理運行	委託車両7台の管理運行	委託車両7台の管理運行
	年度目標値	99%	104%	98%	98%	99%
	年度達成率	19%	36%	58%	79%	99%
	全体達成率					
	備考欄					
	(継続有り)					

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)			
事業の目的・内容(Plan・Do)	民間企業	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
抱える課題やニーズ	行政の非効率の解消及び民間への市場開放	指標(指標計算式/解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	車両部門の民間委託	① 業務車両委託台数	目標年度 令和4年度 実績値 7台 達成度 100.0 %
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果=目的	行政の効率化を実現するとともにし地域の活性化に繋げる		②
内容(どのような手段で何を 行ったか)	業務委託 スクールバス4台、給食配送車1台、福祉バス及び生涯学習バスの計7台の車両運行業務の一括民間委託	業務車両委託台数	
		目標年度 令和4年度 実績値 7台 達成度 100.0 %	
		目標年度 令和4年度 実績値 7台 達成度 100.0 %	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして受当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要/概ね必要	☐	全部
必要/課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	民間委託を行うことにより、行政では難しかった人材の確保や業務管理に関する問題を解消することができた。また、業務内容において、民間ならではの柔軟かつ円滑な対応、運用が図られ、期待以上の効果が得られた。
有効/概ね有効	☒ 達成	
有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が見られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	近年、運転手の確保が難しく募集時や現雇用者の流出を防止策などによって委託費が上昇傾向にあるが、設計数量等を見直すなどにより直営実施の場合と比較しコストの削減を図ることが出来た。
効率的/概ね効率的	☐ 事業費抑制	
効率的/課題あり	☐ 人量削減	
	☒ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	民間委託事業ではあるが、乗車に伴う受益者負担は無く、また、運用面では、通学や学校行事、町民の学習機会の確保、福祉的活用といった町民全般に寄与するものであることから公平であると判断できる。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がない	
公平/不公平	☐ 受益者が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
運転手の確保が困難な中、事業目的である「委託」を発注し、年度内において事故や問題も無く、安全で円滑な運行及び輸送業務を適切に遂行できたことから事業の目標は達成できたものと判断します。		
今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
委託先である民間企業において受注体制を構築しており、直営への現状の変更は困難であることから、事業の継続は必須であると考えます。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

事業名	言語治療児童援助事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・保護者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	通級を要する児童の把握及び交通費の助成人数
抱える課題やニーズ	ことばの発達障がい等は、早期治療が有効であるため、治療を要する児童、保護者に対して広域で紋別市に設置している言語治療学級への通級を促進し、通級に要する経済負担の支援を行うとともに、言語治療学級を運営するための負担も行う必要がある。	指標(指標計算式/解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	ことばの発達障がいをもつ児童の早期治療及び言語治療学級の運営の維持を図る。	①	通級を要する児童把握
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	正しい発音、表現力、理解力を高め、児童の健全な育成に繋がる。	②	通級を要する児童の交通費助成人数
内容(どのような手段で何を行ったか)	通級に要する交通費の助成		
	西紋別地区言語治療学級からの通級児童の交通費(バス往復料金×通級月数)を支給した。		
	西紋別地区言語治療学級の運営費の負担		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☒ 義務的なもの	保護者負担の軽減及び個々の児童がより良い学校生活を送るための経済支援として、通級費助成は必要であり、専門治療機関の設置を維持するために運営費の負担も必要であると判断します。
必要/概ね必要	☒ 全部	
必要/課題あり	☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	ことばの発達障がいをもつ児童の早期治療の設置を維持することができ、ことばの発達障がいをもつ児童の早期発見、治療を行うことができていると判断します。
有効/概ね有効	☒ 達成	
有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が見られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	言語治療については、西紋5市町村の広域実施により、効率的な事業実施が行われていると判断します。
効率的/概ね効率的	☒ 事業費抑制	
効率的/課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	言葉の発達障がいをもつ児童、保護者に対し、言語治療の機会が等しく確保されているので、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平/課題ない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ことばの発達障がいをもつ児童の保護者に対する経済支援を行うとともに、早期発見、治療等により、児童の学校生活の充実に向けて、計画とおり事業が進んでいます。		



継続/現状維持		
障がいの程度は児童により異なることから、専門職員のある言語治療学級を維持するため児童の保護者に対する経済支援等、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010020

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名		語学指導を行う外国青年招致事業	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係		#N/A	
事業指標		配置人数			#N/A	
事業目標	1名		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加			関係例規・法令名	有	語学指導等を行う外国青年就業規則	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業 内 容	令和 2 年度 事業 内 容	令和 3 年度 事業 内 容	令和 4 年度 事業 内 容
計 画 内 容	外国語の充実に向けた語学指導を行う外国青年招致(2年目)	外国青年招致(2年目)	外国青年招致(4年目)	外国青年招致(5年目)	外国青年招致(6年目)
	外国青年招致(人件費・車両維持費等)	外国青年招致(初年度)	外国青年招致(2年目)	外国青年招致(3年目)	外国青年招致(R4.7.31まで任用)
	新学習指導要領対応(外国語教科化)	車両購入	車両購入		
	1名増員				
	(小学校 令和2年度全面実施) (中学校 令和3年度全面実施)				
計 画 事 業 費	事業費(千円)	47,604	9,175	13,255	10,642
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	96	18	22	22
実 績 事 業 費	事業費(千円)	47,508	9,157	13,233	10,619
	国庫支出金	43,247	9,073	12,133	9,977
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	87			
関 連 事 項	特定財源の名称	10	18	22	23
	雇用保険納付金	4,769	9,055	12,111	9,954
		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致
	【評価・実績】	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	Aー継続／拡充	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持
	1人	2人	2人	2人	2人
	年度目標値	87%	99%	92%	94%
	年度達成率	10%	29%	55%	76%
	第5期計画からの継続(継続有り)				
	後期計画への継続				
	備 考				
	(継続有り)				

事業名	語学指導を行う外国青年招致事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者	作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	招致人数
誰、何が(対象)	児童・生徒	指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 2人
抱える課題やニーズ	英語を話す外国人に接する機会が少ないため、英語教育への関心が低く、児童生徒の国際コミュニケーション力が不足している。	① 招致人数	実績年度 2人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	外国人青年を誘致することにより、外国語教育の充実を図る。	②	達成年度 100.0 % 令和4年度
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	児童・生徒が外国語を身近に感じることによって、国際感覚に富んだ人材を育成する。		目標年度 令和4年度
			実績年度
			達成年度
内容(どのような手段で何を行なったか)	JETプログラムによる外国語指導助手(ALT)の招致 小中学校・高等学校等における英語授業の実施		
		北海道知事政策部知事室国際課、自治体国際化協会との連携により外国語指導助手を2名継続配置し、うち1名については、体制の見直しにより、R4.7.31で契約満了とした。	
		年度当初に各学校からの要望に基づき、年間の派遣予定を計画し、中学校・高等学校での英語授業(TT)や小学校での総合的な学習の時間の中での指導を実施した。また、保育所においても入所児に対し、英語に触れる環境づくりを整備した。	

■事務事業の評価(Check)	
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原単位による対応可能性)	
必要	☐ 義務的なもの ☐ 必要／概ね必要 ☐ 課題あり
	全部 一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	
有効	☒ 設定した目標値の達成状況 ☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る
有効／概ね有効 ／課題あり	小中高にALTを派遣することにより、児童、生徒が身近に本場の英語を肌で感じることができるとともに、英語に対する関心が深まっていると判断します。

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)	
効率的	☐ 判断の理由 ☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他
効率的／概ね効率的 ／課題あり	JETプログラムを活用し、適材な外国語指導助手を招致することができていると判断します。

(4)事務事業の公平性	
公平	☐ 判断の理由 ☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他
公平／概ね公平 ／公平でない	地域の児童、生徒を対象に英語教育の機会均等が図られているため、公平性が保たれていると判断します。

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)	

■総合評価【A～D】		
A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等 B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等		
自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各学校担当教員と指導案の確認や授業における役割などの打ち合わせを定期的にを行うことで、効果的な授業が展開されており、計画通り事業が進んでいます。		
今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持		
学校数減等により令和4年8月から1名体制としておりますが、今後も効果的な授業展開のため、計画的に事業を進めることが適当であります。		
※展開方向の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010030

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		小中学校教師用指導書購入事業	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係課		#N/A	
事業指標		各小中学校における授業内容の充実を図る			#N/A	
事業目標		全校	ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加		無	関係例規・法令名		無	
町民協働		無	関係個別計画名		無	

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計画内容	教科書改訂時における指導書の購入と不足分の教師用指導書の購入	教師用指導書の購入	教師用指導書の購入 (小学校改訂)	教師用指導書の購入 (中学校改訂)	教師用指導書の購入
	小学校 令和2年度改訂(令和元年度支払)				
	中学校 令和3年度改訂(令和2年度支払)				
	事業費(千円)	14,700	6,000	2,300	700
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	14,700	6,000	2,300	700
実績事業費	事業費(千円)	9,068	6,491	1,746	367
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	9,068	6,491	1,746	367
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入
		※事務事業評価結果 Bー継続／現状維持 全校	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持 全校	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持 全校	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持 全校
関連事項	【評価・実績】				
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	108%	76%	52%
	後期計画への継続	年度達成率	5%		29%
	(継続有り)	全体達成率	2%	46%	60%
		備考			

事業名	小中学校教師用指導書購入事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・生徒、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	指導書を配備する学校数
抱える課題やニーズ	効率的・効果的な授業展開及び教職員の指導力の向上が求められる。	指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 4校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	指導書を配備することにより、指導案の作成・授業の時間配分・必要な教材等が明確になり、効率的・効果的な授業展開が図られる。	① 町立学校数	実績年度 4校
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	分かりやすい授業展開により、児童・生徒の学力向上に資するとともに、教職員の指導力向上に寄与する。	②	達成度 100.0 % 令和4年度
内容(どのような手段で何を 行ったか)	必要部数の把握 指導書の配備		達成度 令和4年度
	町内各小中学校に対し、不足の状況や既存指導書の状況確認を行い、必要部数の把握を行った。		
	教科書取扱店から購入し、各小中学校に配備した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☒ 業務的なもの	教職員が児童、生徒に対して学習計画を作成し、効率的な授業を展開していく上で必要であると判断します。
必要／概ね必要	☐ 全部	
／課題あり	☒ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	指導書の配備により、教職員の指導力が向上するとともに教材研究も迅速となり、教育内容の充実が図られていると判断します。
有効／概ね有効	☒ 達成	
／課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	各学校に対し、必要部数の精査による購入と、特に、備品としての使用上の管理についても指導しているため、効率的であると判断します。
効率的／概ね効率的	☒ 事業費抑制	
／課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	児童、生徒全員に対する適切な授業の実施が行われていることから公平性が保たれていると判断します。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
／公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない、事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
必要科目分を必要数購入することができ、目標を達成したので、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持	
教員の更なる指導力の向上、児童、生徒に分かちやうい授業を展開するため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画画面実施計画画面書式1

樣式1

No. 12010040

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	一般会計	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		雄武町特別支援教育推進事業	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係		#N/A	
事業指標		特別支援教育支援員の配置			#N/A	
事業目標	5人		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
事業追加			関係例規・法令名	有	雄武町特別支援教育支援員配置要綱	
町民参加	無		関係個別計画名	無		
町民協働						

計 画 内 容	全 体 計 画 内 容	平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	特別な支援を必要とする児童生徒の在る学校の把握と検証に基づく対策の実施 ・特別支援教育支援員の配置 2校(雄武小・雄武中)	特別支援教育支援員の配置	特別支援教育支援員の配置	特別支援教育支援員の配置	特別支援教育支援員の配置	特別支援教育支援員の配置
	事業費(千円)	103,974	18,460	19,290	25,069	22,695
	財源	0				
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	内 容	141	47	47		
	その他					
	一般財源	103,833	18,413	19,243	25,069	22,695
	事業費(千円)	100,428	18,171	19,230	24,711	21,986
実績事業費	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	136	42	47		
	一般財源	100,292	18,124	19,183	24,711	21,986
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	雇用保険納付金	特別支援教育支援員5人の配置 (雄武小4人・雄武中1人)	特別支援教育支援員5人の配置 (雄武小4人・雄武中1人)	特別支援教育支援員5人の配置 (雄武小4人・雄武中1人)	特別支援教育支援員5人の配置 (雄武小4人・雄武中1人)	特別支援教育支援員5人の配置 (雄武小4人・雄武中1人)
		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
		5人	5人	5人	5人	5人
		98%	88%	100%	99%	97%
		17%	33%	52%	75%	97%
		年度目標値	年度達成率	年度達成率	年度達成率	年度達成率
		第5期計画からの継続 (継続有り)	後期計画への継続 (継続有り)			
		【評 価 ・ 実 績】				

事業名	雄武町特別支援教育推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	特別支援教育支援員配置学校数及び人数
抱える課題やニーズ	現状の学校体制では、特別に支援を要する児童生徒への学習支援が困難な状況にある。	指標(指標計算式/解説) ① 特別支援教育支援員配置学校数	目標年度 令和4年度 2校 実績年度 2校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	雄武町独自に特別支援教育支援員を確保し、要望のある学校に配置する。	② 特別支援教育支援員配置人数	達成度 100.0 % 目標年度 令和4年度 5人 実績年度 5人
その結果、どのような成果を実現したのか ※成果＝目的	教育上、特別な支援を要する児童生徒の学力向上及び授業展開の円滑化を図る。		達成度 100.0 %
内容(どのような手段で何を行ったか)	特別支援教育支援員配置 雄武小学校に4人、中学校に1人配置し、教育上、特別に支援を要する児童生徒に対する支援を行った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☒ 義務的なもの	学校教育法改正に伴い、教育上、特別に支援を要する児童生徒に対して、学校設置者は、学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うことが位置付けられているため、支援体制の整備が必要であると判断します。
必要/概ね必要	☐ 全部	
/課題あり	☒ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	学校の経営計画に基づく適正配置により、効果的に学習サポートが行われている状況であり、授業も円滑に進められていると判断します。
有効/概ね有効	☒ 達成	
/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	特別支援教育支援員の学習サポートにより、円滑な授業が展開され、ティームティーチング教員配置教科等では、当該教員が本来の役割を担うことができていると判断します。
効率的/概ね効率的	☐ 事業費抑制	
/課題あり	☐ 人員削減	
	☒ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	教育上、特別な支援を要する児童生徒に対しても個に応じた学習支援を提供できていることから公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
/公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
特別支援教育支援員の配置により、効果的に学習サポート等が行われ、授業も円滑に進められており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
特別支援学級はもとより、普通学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒が増加傾向であることから、今後も大学からの推薦等を活用し、人材確保の方策を検討しながら、引き続き事業を継続することが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010050

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	ふるさと教員配置事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	教員配置数				#N/A	
事業目標	1名		ハート・/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町ふるさと教員配置要綱	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成30年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
町費採用教員の配置(ふるさと教員)		ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置
計画内容	事業費(千円)	11,184	3,728	3,728	0	0
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	45	15	15	0	
	事業費	11,139	3,713	3,713	0	0
	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
実績事業費	その他	0				
	事業費	0	0	0	0	0
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		ふるさと教員 未配置	ふるさと教員 未配置	ふるさと教員 配置準備完了	ふるさと教員 配置完了 (地域おこし協力隊の活用)	ふるさと教員 配置完了 (地域おこし協力隊の活用)
		※事務事業評価結果 Bー継続/内容の見直し・変更 1名	※事務事業評価結果 Cー継続/内容の見直し・変更 1名	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 1名	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 1名	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 1名
		年度目標値	0%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
		年度達成率	0%	0%	0%	0%
		全体達成率	0%	0%	0%	0%
		備考				
		【評価・実績】				
関連事項	第5期計画からの継続 (継続有り)					
	後期計画への継続 (継続有り)					

事業名	ふるさと教員配置事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	ふるさと教員配置人数
抱える課題やニーズ	児童生徒数の減少による、学校内教職員定数の減に伴い、少人数学級の指導に支障を来している状況にある。		指標(指標計算式/解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学校のそれぞれの事情に応じた多種多様な教育活動の円滑化を推進し、教職員数不足により児童に影響を与えることのない学校体制の充実を図る。		①	ふるさと教員配置人数
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	各学校の事情や教職員体制等の把握及び適切な配置を調査し、教職員の研修や行事の際の教職員配置不足に対応できる、適切な学校運営を行う。		②	
内容(どのような手段で何を行ったか)	学校配置		小規模校における学校体制の充実を図るため、1人配置した。(地域おこし協力隊の活用)	

目標年度	令和4年度
目標値	1人
実績値	1人
達成度	100.0 %
目標年度	令和4年度
目標値	
実績値	
達成度	

■事務事業の評価(Check)		■総合評価【A～D】	
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や置直しによる対応可能性)		A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等 B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等	
必要	☒ 義務的なもの ☐ 全部 ☒ 一部	自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)
必要/概ね必要/課題あり		A	町長評価(三次評価)
(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	設定した目標値の達成状況 有効/概ね有効/課題あり	地域おこし協力隊を活用し、ふるさと教員を1名配置したことで、へき地複式校等における少人数学級の指導体制の充実を図ることができた。	
(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか)	判断の理由 効率的/概ね効率的/課題あり	今後の展開方向(Action)	
(4)事務事業の公平性	判断の理由 公平/概ね公平/公平でない	継続/現状維持	
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)			

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010060

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	要保護・準要保護児童生徒援助事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係	5	保健福祉課	
事業指標	児童生徒の義務教育保障				#N/A	
事業目標	経済的理由による就学困難児童生徒数 0人		ハート・/ソフト・事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町就学援助実施要綱	
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	低所得世帯における児童生徒の就学援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 入学準備金・給食費・医療費 クラブ活動費・生徒会費 PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 入学準備金・給食費・医療費 クラブ活動費・生徒会費 PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 入学準備金・給食費・医療費 クラブ活動費・生徒会費 PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 入学準備金・給食費・医療費 クラブ活動費・生徒会費 PTA会費の援助
	事業費(千円)	19,351	3,733	3,733	4,419
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	一般財源	19,351	3,733	3,733	4,419
	事業費(千円)	15,278	3,093	2,971	2,501
	財源				
実 績	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	一般財源	15,278	3,093	2,971	2,501
	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			低所得者層世帯に対する就学援助費の支給 ・小学校児童19人 ・中学校生徒15人	低所得者層世帯に対する就学援助費の支給 ・小学校児童23人 ・中学校生徒14人	低所得者層世帯に対する就学援助費の支給 ・小学校児童15人 ・中学校生徒9人
			※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	0人	0人	0人	0人
	後期計画への継続 (継続有り)	87%	83%	80%	93%
関連事項		年度目標値	33%	48%	66%
		年度達成率			57%
		全体達成率			79%
		備考			

事業名	要保護・準要保護児童生徒援助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	児童・生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	経済的理由による就学困難児童生徒の解消
抱える課題やニーズ	経済的理由により、就学(義務教育を受けること)に支障をきたしている世帯がある。	指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 0人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学校教育法に基づいて必要な支援を行い、就学(義務教育を受けること)機会の均等化を図られる。	① 就学困難児童生徒数	実績年度 0人
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	一定水準の義務教育が保障されるとともに、児童生徒の健全な育成に繋がる。	②	達成度 100.0 %
	支援を必要とする世帯の把握		目標年度 令和4年度
	学校を通じて保護者に対して制度の周知を行い、学校から提出を受けた申請に基づき、教育委員会議において認定の可否を決定した。		実績年度
内容(どのような手段で何を行ったか)	就学援助費の支給		達成度

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☒ 義務的なもの	学校教育法において市町村は就学困難と認められる児童生徒の保護者に援助することとされており、町が担うべき事業であると判断します。
必要／概ね必要	☒ 全部	
／課題あり	☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	本事業の実施に伴い、経済的に就学が困難な世帯の児童生徒に対する必要な支援を行うことができたかと判断します。
有効／概ね有効	☒ 達成	
／課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	支給額は、国の支給基準額並びに領収書に基づく実費支給であり、町実施要綱に基づき、効率的な処理であると判断します。
効率的／概ね効率的	☐ 事業費抑制	
／課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	本事業の実施に伴い、児童生徒における均等な教育機会が確保されているので公平であると判断します。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
／公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
一定水準の均等な義務教育を受ける機会が保障されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持	
法に基づく支援であり、義務教育の機会を均等に受けることは必要であり、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010070

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載	
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A			
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実		3	単独自治事務(その他)		
事業名	児童生徒授業用コンピューター等整備(更新)事業			12	教育委員会教育振興課		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当	課	#N/A		
事業主体	雄武町		関係	課	#N/A		
事業指標	①更新・新規整備台数 ②端末等の運用方針		ハート・ソフト事業区分	1	ハード事業		
事業目標	①280台 ②端末等の適切な運用		関係例規・法令名	無			
町民参加	無		関係個別計画名	無			
町民協働							

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業 内 容		事業 内 容	事業 内 容	事業 内 容	事業 内 容	事業 内 容
計 画 内 容	・授業用パソコンの更新整備 小学校 現有76台 （雄武35、沢木17、豊丘15、共栄9） 中学校 現有41台 ※雄武小中：H25年購入、小規模校：H29年購入 ・授業用パソコンの新規整備 小学校 136台（雄武133、沢木2、豊丘1） 中学校 69台 ・端末充電保管庫整備 ・既存端末用キーボード整備 ・可搬型通信機器整備・遠隔学習機能機材整備 ・学校インターネット回線増強 ・学習支援ソフト整備・運用 ・端末保守業務委託	更新整備に向けた事前調査 （雄武35、沢木17、豊丘15、共栄9） 雄武中学校 41台 （端末41台、サーバー一式） （教育用アプリケーション一式） 19,107千円	雄武小学校 35台 （管理用PC1台・児童用34台） 19,502千円 雄武中学校 41台 （端末41台、サーバー一式） （教育用アプリケーション一式） 19,107千円	・タブレットPC（新規）205台 （雄武小 133台、沢木小 2台、 豊丘小 1台、雄武中 69台） 16,000千円 ・PC充電保管庫 11台 3,700千円 ・既存端末用キーボード 75台 1,240千円 ・可搬型通信機器 190千円 ・遠隔学習機能機材 417千円 ・学習支援ソフト導入 1,250千円 ・学校インターネット回線増強 1,200千円	・学習支援ソフト運用 1,500千円 ・端末保守業務委託 820千円	・学習支援ソフト等ライセンス使用料 4,127千円 ・学習用端末保守料 2,476千円 ・ICT関連機器修繕料 800千円 ・授業支援ソフト等設定手数料 784千円 ・授業用タブレット購入 17,000千円 ・スタライラスペン購入 2,280千円
	事業費（千円）	92,393	38,609	23,997	2,320	27,467
	財源	国庫支出金		18,677		
	内 地 方 債	0				
	内 そ の 他	38,609				
	内 一般財源	35,107				
	事業費（千円）	41,883	24	5,320	2,320	27,467
	内 国庫支出金	16,635		17,831	1,320	22,708
	内 道 支 出 金	0				
	内 地 方 債	0				
内 そ の 他	16,250				16,250	
内 一般財源	8,998	24	1,196	1,320	6,458	
特定財源の名称	（実施内容等）	（実施内容等）	（実施内容等）	（実施内容等）	（実施内容等）	
・ふるさと応援基金繰入金	雄武小、雄武中のPC更新整備 に向けた調査、検討	管理用PC 2台（小中各1台） 小学校教師用タブレットPC 10台 小学校児童用PC 35台 中学校教師用タブレットPC 5台 中学校児童用PC 40台	・タブレットPC充電保管庫 11台 ・キーボード 75台 ・タブレットPC 205台 ・可搬型通信機器 10台 ・遠隔学習機能機材 9台 ・学習支援ソフト導入 ほか	・学習支援ソフト購入 160台 ・学習支援ソフト等ライセンス使用料 ほか		
・公立学校情報機器整備費補助金	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 Aー継続／拡充	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	
・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金						
第5期計画からの継続 （継続有り）	年度目標値	①75台	①205台 ②環境整備等の実施	①ICT環境整備の実施	①ICT環境整備の実施	
後期計画への継続 （継続有り）	年度達成率	#DIV/0!	74%	57%	83%	
後期計画への継続 （継続有り）	全体達成率	0%	19%	21%	45%	
備考欄	備考欄					

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010080

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	山村留学推進事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	山村留学実施校の存続				#N/A	
事業目標	1校		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名		無	
町民協働	無		関係個別計画名		無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
雄武町山村留学推進協議会への運営補助		協議会への運営補助	協議会への運営補助	協議会への運営補助	協議会への運営補助
・山村留学実施校 共栄小					
計画事業費	事業費(千円)	500	500	500	500
	国庫支出金	0			
財源	道支出金	0			
	地方債	0			
事業費	その他	0			
	一般財源	500	500	500	500
実績事業費	事業費(千円)	500	500	0	0
	国庫支出金	0			
財源	道支出金	0			
	地方債	0			
事業費	その他	0			
	一般財源	500	500	0	0
特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助
【評価・実績】	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Cー継続／内容の見直し・変更	Cー終了
関連事項	年度目標値	1校	100%	100%	0%
	年度達成率	20%	40%	60%	60%
後期計画への継続	年度達成率	20%	40%	60%	60%
	全体達成率				
(継続有り)	備考				

事業名	山村留学推進事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者	作成者 職氏名	教育振興課長補佐	渡部 憲一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・地域住民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	山村留学の実施校数
抱える課題やニーズ	児童数の減少から、関係学校の存続と地域衰退が懸念されている。	指標(指標計算式／解説)	目 標 年 度 目 標 値 値 令和4 年度 1 校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域協議会の活動を通じ、山村留学生を誘致し、へき地校の存続と教職員数の確保を図る。	① 山村留学実施校数	実 績 値 値 1 校
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	山村留学実施校の教育内容や教育環境の充実と地域活性化を促進するとともに山村留学生による児童数の増員を推進する。	②	達 成 度 度 100.0 %
	雄武町山村留学推進連絡協議会の運営		目 標 年 度 目 標 値 値 令和4 年度
内容(どのような手段で何を行ったか)		産業関係団体と地域連絡協議会からなる協議会を運営してきたが、対象校の閉校が決定したため、協議会の活動及び補助金の支出を中止した。	実 績 値 値
			達 成 度 度

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	僻地学校の存続は、過疎化や地域の衰退防止に寄与することから、必要な事業である。
必要／概ね必要	☐	全部	
／課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	山村留学の関心を高めるための事業活動推進に寄与してきたが、対象校の閉校の決定に伴い、協議会の活動を中止したため、概ね有効とする。
有効／概ね有効	達成	
／課題あり	ほぼ達成	
	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率性	判断の理由	協議会を通じて、必要な支援を行ってきたが、対象校の閉校が決定し、協議会の活動が中止となったことに伴い、補助金の支出を中止したため、概ね効率性的と判断する。
効率性／概ね効率性	事業費抑制	
／課題あり	人員削減	
	時間短縮・作業軽減	
	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業PRの際には特に制限を設けていないので、万人が事業活動を知ることができる。
公平／概ね公平	受益者負担がある	
／公平でない	受益者負担がない	
	受益が一部に偏る	
	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C		
僻地学校の存続は、過疎化や地域の衰退防止に寄与することから、産業関係団体等からなる協議会を運営してきたが、対象校の閉校が決定したため、協議会の活動を中止することとした。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
対象校である共栄小学校が令和5年度で閉校することから、雄武町山村留学推進連絡協議会の解散を予定し、本事業を終了する。		

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010100

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	小中学校教育備品整備事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係		#N/A	
事業指標	学校施設の計画的な備品整備				#N/A	
事業目標	全校		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計画内容	各学校における教育環境の維持・確保 ・複写機、印刷機、その他備品の更新及び購入	各小中学校管理教材備品 ・複写機 1, 100千円 ・印刷機 1, 300千円 ・学校管理備品 3, 950千円 ・学校教材備品 2, 150千円	各小中学校管理教材備品 ・複写機 1, 300千円 ・印刷機 1, 300千円 ・学校管理備品 2, 300千円 ・学校教材備品 2, 450千円	各小中学校管理教材備品 ・学校管理備品 3, 100千円 ・学校教材備品 3, 700千円	各小中学校管理教材備品 ・学校管理備品 3, 200千円 ・学校教材備品 1, 800千円
	事業費(千円)	35,870	7,350	8,220	5,000
	財源	国庫支出金 0			
	道支支出金 0				
	地方債 0				
	その他 0				
	事業費	35,870	7,350	8,220	5,000
	一般財源	32,951	7,082	8,630	3,815
	国庫支出金 0				
	道支支出金 0				
実績事業費	財源	国庫支出金 0			
	道支支出金 0				
	地方債 0				
	その他 0				
	事業費	32,951	7,082	8,630	5,577
	一般財源				
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		各小中学校教材備品の購入 ・複写機 ・印刷機 ・学校管理備品 ・学校教材備品 ※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	各小中学校教材備品の購入 ・複写機 ・印刷機(3台) ・学校管理備品 ・学校教材備品 ※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	各小中学校教材備品の購入 ・暗幕 ・学校管理備品 ・学校教材備品 ※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	各小中学校教材備品の購入 ・学校管理備品 ・学校教材備品 ※事務事業評価結果 A－継続／現状維持
	年度目標値	全校	全校	全校	全校
	年度達成率	92%	96%	105%	82%
関連事項	後期計画への継続 (継続有り)	22%	42%	66%	81%
	備考				

事業名	小中学校教育備品整備事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・生徒、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	備品配備学校数
抱える課題やニーズ	教育情勢の変化や経年劣化に伴い必要となる教材備品及び管理備品の計画的な整備	指標(指標計算式/解説)	① 備品配備学校数
どのような状態になることを目指したのか(意図)	備品の計画的な整備により、日々の授業及び校務の円滑化を推進する。		目標年度 令和4年度 4校
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	小中学校における教育環境の構築と児童生徒に対する教育内容の充実を図る。		実績年度 令和4年度 4校
			達成度 100.0 %
			目標年度 令和4年度 4校
			実績年度 令和4年度 4校
			達成度 100.0 %
内容(どのような手段で何を行ったか)	各学校における要望調査の実施		目標年度 令和4年度 4校
	必要備品の配備		実績年度 令和4年度 4校
			達成度 100.0 %
			目標年度 令和4年度 4校
			実績年度 令和4年度 4校
			達成度 100.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	業務的なもの	教育水準向上に向けた義務教材等の整備並びに校務推進上、必要な管理備品の整備(更新)については、教育環境及び教育内容の充実を図るために必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要	☐	全部	
/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	小中学校の特色ある教育課程に対応した教材等の整備に伴い、授業及び校務が円滑に推進されていると判断します。
有効/概ね有効	☐	達成	
/課題あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☒	判断の理由	各学校における要望備品の査定の実施及び複数業者による見合わせ・入札による購入等、事業費の抑制に努めています。
効率的/概ね効率的	☐	事業費抑制	
/課題あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☐	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	学校運営上、小中学校の全児童、生徒に対しての教育内容や教育環境の充実が図られていることから、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐	受益者負担がある	
/公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
教材等の整備並びに校務に必要な備品の整備により、教育内容や教育環境の充実が図られ、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
授業及び校務を円滑に推進するため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010110

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	生徒教育振興事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係		#N/A	
事業指標	部活動を通じて生徒の健康増進を図るとともに、仲間意識を強め、より良い学校づくりを行う				#N/A	
事業目標	1校		ハート・/ソフト・事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名			
町民協働	無		関係個別計画名			

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
中体連等参加経費の負担		参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担
計画内容	事業費(千円)	12,000	2,400	2,400	2,400
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	12,000	2,400	2,400	2,400
	一般財源	2,400			
	国庫支出金	8,309	1,702	608	1,861
	道支出金	0			
実績事業費	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	8,309	1,702	608	1,861
	一般財源	2,321			
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担
		【評価・実績】			
関連事項		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	1校	1校	1校	1校
	年度目標値	97%	71%	25%	78%
	年度達成率	19%	34%	39%	54%
	後期計画への継続 (継続有り)				

事業名	生徒教育振興事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	部活動を通じた豊かな人間形成を構築する学校数
誰、何が(対象)	生徒、保護者	指標(指標計算式/解説)	
抱える課題やニーズ	部活動加入率及び大会参加経費が増加傾向にあり、大会への参加奨励のための支援を要する。	① 中学校数	目標年度 令和4年度 1校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	本事業によって保護者負担の軽減を図る。部活動を通じて仲間意識を養うとともに生徒の健康保持、増進を図る。	達成度 100.0 %	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	仲間意識が養われ、生徒が充実した学校生活を送ることによって、より良い学校作りにつながり、さらには学習意欲の向上にもつながる。	②	目標年度 令和4年度
	大会参加に係る負担金の助成	目標年度 令和4年度	1校
内容(どのような手段で何を行ったか)	中学校から提出された実施要項並びに負担費用の内訳を付した申請書について、参加費補助要項(内規)に基づき内容を審査し、適当であれば資金前渡しにより負担金を支出。大会終了後、領収書を添付した報告書の提出を求め、支出状況を確認のうえ精算した。	実績年度 令和4年度	1校

■事務事業の評価(Check)	
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)	
必要	☐ 義務的なもの
必要/概ね必要	☐ 全部
必要/概ね必要/課題あり	☐ 一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	
有効	設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☒ 達成
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)	
効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的	☒ 事業費抑制
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☐ その他

(4)事務事業の公平性	
公平	判断の理由
公平/概ね公平	☒ 受益者負担がある
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)	

■総合評価【A～D】	
A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等	
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等	
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等	
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等	

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
義務教育課程における活動であり、保護者の負担軽減を図るとともに、部活動を通じて健康保持、増進を図られ、豊かな人間形成が確立されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向 (Action)

継続/現状維持	
保護者の負担が軽減され、生徒間の仲間意識が向上、充実した学校生活を送ることにより、豊かな人間形成が確立されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分	
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更	
○終了 ○休止 ○廃止	

第6期雄武町總合計畫畫面前期實施計畫畫面書

樣式1

No. 12010120

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合の記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度			
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	事業優先度		B	
事業名		学校図書整備事業	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業主体		平成30年度～令和4年度	見直し年度			
事業指標		雄武町	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業目標		計画的な図書整備	関係		#N/A	
		全校	ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
		無	関係例規・法令名		学校図書館法	
			関係個別計画名		無	
町民参加						
町民協働						

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	学校図書館の充実	学校図書への購入				
	各小中学校の学校図書購入	学校図書への購入				
	事業費（千円）	7,503	1,350	1,350	2,128	1,325
	財源	0				
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	7,503	1,350	1,350	2,128	1,325
	一般財源	0	0	0	0	0
	事業費（千円）	7,334	1,312	1,348	2,063	1,265
実績	国庫支出金	0				
道支出金	0					
地方債	0					
その他	7,308	1,312	1,348	1,345	2,063	1,240
事業費	一般財源	26		1		25
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等)				
	ふるさと応援基金繰入金	各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
		各小中学校の学校図書購入				
第5期計画からの継続 （継続有り）	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	
後期計画への継続 （継続有り）	全校	全校	全校	全校	全校	
年度目標値	97%	100%	97%	97%	95%	
年度達成率	17%	35%	53%	81%	98%	
全体達成率						
備考						

事業名	学校図書整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	計画的な図書配備を行う学校数
抱える課題やニーズ	児童・生徒の発達段階に見合った継続性のある図書整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 4校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学校図書館の図書の充実及び児童・生徒の読書意欲等の促進を図る。	① 図書配備学校数	実績年度 4校
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	児童・生徒の発達段階に見合う図書整備を実施することで、健全な教養を育成するとともに、自ら学ぶ意欲の向上が図られる。	②	達成度 100.0 %
	図書備品購入費の配当	目標年度	令和4年度
内容(どのような手段で何を行なったか)	図書の購入	実績年度	令和4年度
		達成度	
	国の定める基準に基づき、学校へ図書購入費を配当した。		
	学校からの購入申請について、内容審査のうえ承認し、学校が購入した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☐	事務的なもの	学校図書の整備は、教育課程において必須とされるものであり、教育内容の充実、教育環境を整備する上において、学校図書
必要/概ね必要	☐	全部	の購入、更新は必要であると判断します。
/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	教育課程において必要な図書をもって、豊かな人間形成を推進するとともに、常に変化を促す社会に適応した図書の配備により、児童、生徒の健全な教養が育成されていると判断します。
有効/概ね有効	☐	達成	
/課題あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	判断の理由	町図書館との連携により、重複した図書購入の防止等に努めています。
効率的/概ね効率的	☐	事業費抑制	
/課題あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	児童、生徒に対する必要な図書整備を進めており、図書利用の公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐	受益者負担がある	
/公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
学校図書の整備により、児童、生徒の健全な教養の育成が図られており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
教育課程において必要とされる図書及び時代に即した図書を計画的に配備することにより、児童、生徒の健全な教養が育成されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010130

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	協議会の安定運営				#N/A	
事業目標	1団体		ハート・/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成 30 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	町内全教育機関の連携による学校教育内外の活動と教職員資質の向上を図るための協議会に対する運営補助	運営補助	運営補助	運営補助	運営補助
	事業費(千円)	6,000	1,200	1,200	1,200
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	6,000	1,200	1,200	1,200
	事業費(千円)	5,365	994	1,087	1,144
	財源				
	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	5,365	994	1,087	1,144
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付
		【評価・実績】			
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持
		1団体	1団体	1団体	1団体
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	83%	91%	95%
	後期計画への継続	年度達成率	17%	51%	70%
		全体達成率			
		備考			

事業名	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	協議会の安定した運営
抱える課題やニーズ	児童生徒数の減少による、教職員の定数配置の減少に伴い、学校経営・運営に支障を来している。	指標(指標計算式/解説) ① 運営団体数	目標年度 令和4年度 1 団体 実績年度 1 団体 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町内の全教育機関が連携し、専門部会ごとの課題検討や協議によって教職員の資質向上と時代の変化に対応した均質な学校経営、運営を進める。	②	目標年度 令和4年度 実績年度 達成度
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	雄武町教育目標の達成に向けて町内の全教員が同じ認識のもとに学校経営・運営を行うとともに、教職員の資質向上によって児童生徒が時代の変化に対応した、より良い教育を受けることができる。		
内容(どのような手段で何を行なったか)	協議会への運営補助		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☐	職務的なもの	大きく変化する教育情勢に対応するため、町内の全教育機関が連携し、専門部会ごとに課題検討、協議を進め、教職員の資質向上、時代の変化に対応した均質のある学校経営、運営を行うためにも運営補助は必要であると判断します。
必要/概ね必要	☐	全部	
/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	安定した協議会運営がなされ、各種部門部会での積極的な課題検討が行われるとともに、教職員の資質向上に向けた研修も行われており、各学校間の連携も図られていると判断します。
有効/概ね有効	☒ 達成	
/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	活動に見合う効率的かつ効果的な運営を促しており、補助金についても、運営状況の精査を行うなど効率化に努めています。
効率的/概ね効率的	☒ 事業費抑制	
/課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	各学校において、成果に基づき均質ある教育が進められているほか、全教職員の資質向上に対して、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
/公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
時代の変化に対応した均質のある学校経営、運営が行われており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
変化する教育情勢に対応し、適切な学校経営及び運営並びに協議会組織を活用した事業を展開することにより教職員の資質向上が推進されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010140

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	教職員教育振興事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	教職員の資質の向上と授業内容の向上				#N/A	
事業目標	全校		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名		無	
町民協働	無		関係個別計画名		無	

全体計画内容		平成・30年度 事業内容	令和・2年度 事業内容	令和・3年度 事業内容	令和・4年度 事業内容
計画内容	教職員の資質の向上等を図るため、各種研修等に要する経費について一部を負担する。	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担
	事業費(千円)	2,308	450	450	508
	財源	国庫支出金			
		道支出金			
		地方債			
		その他			
	事業費	0			
		一般財源	450	450	508
		2,308	298	336	313
	事業費(千円)	1,470			
実績事業費	国庫支出金	0			
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	0			
		一般財源	293		
		1,470			
	特定財源の名称		298	230	313
		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担
関連事項	【評価・実績】				
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持
		全校	全校	全校	全校
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	65%	51%	62%
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	13%	36%	64%
		全体達成率			
		備考			

事業名	教職員教育振興事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者	作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各学校における教育内容の充実
誰、何が(対象)	教職員	指標(指標計算式／解説)	
抱える課題やニーズ	へき地の不利な条件等から、教員の資質向上を図るための研修機会が少ない状況となっている。	① 本事業の活用学校数	目標年度 令和4年度 4校
どのような状態になることを目指したのか(意図)	教職員が本事業を活用し、積極的に視察や研修を行う。	達成度	100.0 %
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	変化する教育情勢に対応した知識の習得など、教職員としての資質の向上を図ることによって、円滑な学校運営が推進され、さらには教育内容の充実にもつながる。	②	目標年度 令和4年度
	校内研修計画書等の徴取	目標年度 令和4年度	達成度
内容(どのような手段で何を 行ったか)	各学校において実施する校内研修、公開研究会に係る計画内容を確認した。	目標年度 令和4年度	達成度

■事務事業の評価(Check)		■総合評価【A～D】		
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や互換しによる対応可能性)		A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等 B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等		
必要	☐ 業務的なもの	自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
必要／概ね必要	☐ 全部			
必要あり	☐ 一部			

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	
有効	設定した目標値の達成状況
有効／概ね有効	☒ 達成
有効あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)	
効率的	判断の理由
効率的／概ね効率的	☒ 事業費抑制
効率的あり	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☐ その他

(4)事務事業の公平性	
公平	判断の理由
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある
公平でない	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)	

今後の展開方向 (Action)		継続／現状維持
へき地勤務教職員は都市部と比較し、研修機会が少ないため、研修に対し支援を行うことにより、教職員としての資質が向上するとともに、円滑な学校運営、教育内容も向上しており、計画どおり事業が進んでいます。		へき地に勤務する不利性を解消し、本事業によって研修に参加することにより、教職員としての資質が向上し、円滑な学校運営、教育内容の充実にもつながるため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。
※展開方向の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010170

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		A	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	資格取得者数				#N/A	
事業目標	児童40人 生徒80人		ハート・/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町立小中学校児童生徒検定チャレンジ促進助成金交付要綱	
町民協働			関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計画内容	漢字検定・英語検定受験料の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成
	事業費(千円)	2,150	325	500	500
計画事業費	財源	国庫支出金			
		道支出金	0		
事業費	地方債				
	その他	0			
実績事業費	一般財源	2,150	325	500	500
	事業費(千円)	1,597	325	361	252
実績事業費	財源	国庫支出金			
		道支出金	0		
事業費	地方債				
	その他	0			
特定財源の名称	一般財源	1,597	325	361	252
		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
へき地児童生徒援助費等補助金	検定受験費用の助成	児童91人・生徒64人	検定受験費用の助成	児童37人・生徒79人	検定受験費用の助成
			児童37人・生徒95人	児童62人・生徒72人	児童53人・生徒42人
関連事項	【評価・実績】				
	※事務事業評価結果	Bー継続／内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	120人・100人	※事務事業評価結果	Aー継続／現状維持	Bー継続／内容の見直し・変更
	年度達成率	100%	Bー継続／内容の見直し・変更	児童40人・生徒80人	児童40人・生徒80人
後期計画への継続(継続有り)	全体達成率	15%	120人・100人	150人・100人	児童40人・生徒80人
	備考欄		100%	67%	72%
			30%	46%	63%
					50%
					74%

事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	児童、生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	チャレンジ児童生徒数
抱える課題やニーズ	児童の漢字検定並びに生徒の漢字検定及び英語検定における受験費用の保護者の経済的負担の軽減。	① チャレンジ児童数	目標年度 令和4年度 実績値 40人 達成度 53人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	漢字検定及び英語検定受験費用を全額助成することにより保護者負担の軽減を図る。	② チャレンジ生徒数	目標年度 令和4年度 実績値 80人 達成度 42人 52.5%
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	受験費用の全額助成により、受験者が増加し、児童生徒の漢字力及び英語力の向上が図られる。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	助成金の支給	受験者の取りまとめは、町内各小中学校が窓口となり、教育委員会に報告。教育委員会は各学校からの申請に基づき助成金を交付した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	児童、生徒の学習意欲、チャレンジ精神の向上、保護者への経済支援として、受験費用の全額助成は、学力向上のためにも必要であると判断します。
必要／概ね必要	☐	全部	
必要あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	☐	設定した目標値の達成状況	児童生徒の学習意欲の向上に寄与していることから、概ね有効と判断します。
有効／概ね有効	☐	達成	
有効あり	☐	ほぼ達成	
	☒	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	
	☐	事業費抑制
	☐	人員削減
	☐	時間短縮・作業軽減
効率的／概ね効率的／課題あり	☒	その他

学習意欲、チャレンジ精神の向上を推進するために行っている事業であり、現時点においては、コストに見合った効果が得られていると判断します。

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	児童、生徒の誰もが、チャレンジする場合に助成が受けられるものであり、公平性が保たれていると判断します。
公平／概ね公平	☐	受益者負担がある	
公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
前年度よりも受験者数は減少しましたが、費用を全額助成することで保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、児童生徒の漢字力及び英語力の向上に努め、ほぼ計画とおりに進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続／内容の見直し・変更	
利用増に向けて、制度の活用を再度学校へ周知するとともに、学校と協議しながら事業の進め方を改善しつつ、計画的に進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12010190

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和3年度以降、校務支援システム運用に係る費用は毎年生じる。
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		教職員用パソコン導入(更新)事業	見直し年度			
事業期間		令和2年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係課		#N/A	
事業指標		配置校数			#N/A	
事業目標		5校	ハート・ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加		無	関係例規・法令名			
町民協働			関係個別計画名			

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業 内 容	令和 2 年度 事業 内 容	令和 3 年度 事業 内 容	令和 4 年度 事業 内 容
教職員用パソコン更新整備事業			校務支援システム導入		更新整備に向けた事前調査
計 画 内 容	事業費(千円)	1,300			
	財源				
	国庫支出金	0	1,300	0	0
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	1,300	1,300		
	事業費(千円)	851			
	財源				
	国庫支出金	0			
実 績	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	事業費	851	851		
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			校務支援システム導入		更新整備に向けた機種選定、台の調査を実施
関 連 事 項	【評 価 ・ 実 績】				
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		Aー継続・現状維持	Aー継続・現状維持	Aー継続・現状維持	Aー継続・現状維持
	第5期計画からの継続	年度目標値	5校		4校
	後期計画への継続	年度達成率	65%	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	65%	65%	65%
		備考欄			

事業名	教職員用パソコン導入（更新）事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
令和4年度実施
令和5年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	調査校数
誰、何が(対象)	教職員	指標(指標計算式/解説)	
抱える課題やニーズ	学校における働き方改革に関する取り組みとして、ICTを活用した業務の効率化推進や勤務時間管理の徹底が求められている。	①	目 標 年 度 目 標 値 実 績 値 達 成 度 100.0 % 目 標 年 度 目 標 値 実 績 値 達 成 度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	教職員の業務負担軽減と情報の共有化	②	目 標 年 度 目 標 値 実 績 値 達 成 度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	児童生徒との関わる時間の増加による教育の質の向上		
	更新整備に向けた事前調査		
内容(どのような手段で何を行ったか)	令和5年度の更新に向けた事前調査(機種種の選定、台数調査等)を実施した。		

■事務事業の評価(Check)	
(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)	
必要	☐ 業務的なもの
必要/概ね必要	☐ 全部
/課題あり	☐ 一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)	
有効	設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☒ 達成
/課題あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)	
効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的/課題あり	☒ 事業費抑制
	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☐ その他

(4)事務事業の公平性	
公平	判断の理由
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある
/公平でない	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)	

■総合評価【A～D】		
A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等 B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等		
自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
令和5年度中の更新に向けて、一定の調査準備を終えたことから、計画通り事業が進んでいます。		
今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12010222

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	小中学校感染症対策事業		見直し年度			
事業期間	令和2年度～令和3年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	感染症対策備品等の整備校数				#N/A	
事業目標	5校		ハード/ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加			関係例規・法令名			
町民協働	無		関係個別計画名			

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	新型コロナウイルス感染症対策等備品及び消耗品の整備 (雄武小学校、沢木小学校、豊丘小学校、共栄小学校、雄武中学校 計5校)			新型コロナウイルス感染症対策等備品及び消耗品の整備 ※令和2年度繰越	新型コロナウイルス感染症対策等備品及び消耗品の整備 ※令和2年度繰越	新型コロナウイルス感染症対策等備品及び消耗品の整備 ※令和3年度繰越
	事業費(千円)	10,000	0	10,000	0	0
	財源	国庫支出金		10,000		
		道支出金	0			
		地方債	0			
		その他	0			
	訳	一般財源	0			
	事業費	11,928	0	7,673	559	3,696
	財源	国庫支出金		5,874	279	3,670
		道支出金	0			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・学校保健特別対策事業費補助金	【評 価 ・ 実 績】				
	・新型コロナウイルス感染症対応広域地方創生臨時交付金					
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	#DIV/0!	#DIV/0!	Aー継続／現状維持	Aー継続／現状維持	Aー終了
	後期計画への継続	0%	0%	5校	5校	4校
	年度目標値			77%		
	年度達成率			77%		
	全体達成率				#DIV/0!	#DIV/0!
	備考欄				82%	119%

事業名	小中学校感染症対策事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

児童・生徒・教職員・学校環境	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	感染症対策の実施	
抱える課題やニーズ	新型コロナウイルス感染症対策の充実	指標(指標計算式/解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	徹底した新型コロナウイルス感染症対策を実施することにより、クラスターの発生防止、感染リスク低減を目指す	①	感染症対策の実施校
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	クラスターが発生した場合であっても、十分な環境整備を実施することにより、学校設置者としての責務や説明責任を全うすることが可能であり、クラスター終息後においても適切な環境構築を目指す	②	
内容(どのような手段で何を 行ったか)	対策関係消耗品の購入	目標年度	令和4年度
	対策関係備品の購入	目標年度	令和4年度
		実績年度	令和4年度
		達成度	100.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要/概ね必要	☐	全部
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☒ 達成
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 事業費抑制
	☐ 人員削減
	☒ 時間短縮・作業軽減
	☐ その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある
公平/概ね公平/公平でない	☒ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☐ その他

■その他他記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価(A～D)

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が衰えている。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
学校の要望どおり整備を実施したので目標が達成されました。		

今後の展開方向
(Action)

終了	
交付金、補助金等を活用した事業については、一旦終了となりますが、今後も引き続き一定の感染症対策は継続し、消耗品等の購入については、経常経費として各学校へ予算を配当し、執行することとします。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更

○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12010231

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	学校運営協議会(コミュニティ・スクール)推進事業		見直し年度			
事業期間	令和2年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係		#N/A	
事業指標	学校・家庭・地域の連携による教育力の向上		ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	学校運営協議会の設置数		関係例規・法令名	有	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5	
町民参加	有	協議会員として参画	関係個別計画名	無		
町民協働						

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	●学校運営協議会の設置			・協議会の設置 ・協議会の開催(3回) ・講師招聘による研修(1回) ・先進地視察(1回)	・協議会の開催(5回) ・管内協議会参加(1回)	・協議会の開催(5回) ・管内協議会参加(1回)
	●学校運営協議会の開催					
	事業費(千円)	1,200	0	400	400	400
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	事業費(千円)	1,200	0	400	400	400
	国庫支出金	320	0	118	78	124
	道支出金	0				
実 績	事業費(千円)	0				
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	事業費(千円)	320				
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
【評 価 ・ 実 績】	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
第5期計画からの継続	年度目標値	#DIV/0!	#DIV/0!	30%	20%	31%
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	10%	16%	27%
	全体達成率	0%	0%			
	備考					
	備考					
後期計画への継続	年度目標値	#DIV/0!	#DIV/0!	30%	20%	31%
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	10%	16%	27%
	全体達成率	0%	0%			
	備考					
	備考					

事業名	学校運営協議会(コミュニティ・スクール)推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校教育係長	高橋 洋祐

令和4年度実施
令和5年度評価

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)推進事業

■ 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小中学校	協議会の開催
抱える課題やニーズ	地域とともにある魅力ある学校づくり	目標年度 令和4年度 実績年度 令和5年度 達成年度 3回 60.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学校運営協議会の運用・運営の安定を図る	目標年度 令和4年度 実績年度 令和5年度 達成年度 3回 60.0 %
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	保護者や地域住民等が積極的に学校運営に参画することにより、地域と学校の連携が強化され、協働による学校づくり体制を構築する。	目標年度 令和4年度 実績年度 令和5年度 達成年度 3回 60.0 %
内容(どのような手段で何を 行ったか)	協議会の開催 協議会(全体会)の内容の見直し	目標年度 令和4年度 実績年度 令和5年度 達成年度 3回 60.0 %

■ 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☒	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
必要／概ね必要 ／課題あり	☒	一部

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	☐	達成
有効／概ね有効	☐	ほぼ達成
有効／概ね有効 ／課題あり	☒	下回る

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果を得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率性	☐	判断の理由
効率性／概ね効率性 ／課題あり	☐	委員には限られた時間で協議していたが、内容を見直したことで、短時間で委員の考えや地域の課題等を整理し深く議論することができたことから概ね効率的であったと判断します。

(4) 事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由
公平／概ね公平 ／公平でない	☐	全ての学校を対象として、必要な支援について協議することから、公平であると判断します。

■ その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■ 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会評価値(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		

全体会を2回、学校部会を1回開催し、熟議等を行うとともに、内容の見直しを行ったことで、各委員の学校運営に参画する意識を醸成し、各学校のグラントデザイン等を理解してもらうことができたことでほぼ計画通り事業が進んでいます。

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持

協議会を活性化させるための手法を今後も検討しながら計画的に事業を進めることが適当であります。

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画画面前実施計画画面書式様

No. 12020010

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と視点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載	
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度		B		
単位施策	1	生涯学習活動の推進	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)		
事業名		生涯学習推進事業	見直し年度				
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課		
事業主体		雄武町	関係		#N/A		
事業指標		学習会、講座の開設	課		#N/A		
事業目標		生きがい大学、町民大学、成人講座の開催	ハート' / ソフト 事業区分	2	ソフト事業		
町民参加		無	関係例規・法令名				
町民協働		無	関係個別計画名				

全体計画内容		平成30年度事業内容	令和元年度事業内容	令和2年度事業内容	令和3年度事業内容	令和4年度事業内容
計画内容	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座 高齢者教室交流の集い(4年に1度)	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座 高齢者教室交流の集い	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座
事業費(千円)	2,830	540	540	550	650	550
財源	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0					
事業費(千円)	2,830	540	540	550	650	550
財源	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0					
事業費(千円)	747	529	201	0	0	17
特定財源の名称	(実施内容等) 生きがい大学の開催8回 町民大学3回 成人講座2回	(実施内容等) 生きがい大学の開催6回 町民大学3回 成人講座2回	(実施内容等) 生きがい大学 未実施 町民大学 未実施 成人講座 未実施	(実施内容等) 生きがい大学 未実施 町民大学 未実施 成人講座 未実施	(実施内容等) 生きがい大学 未実施 町民大学 未実施 成人講座 未実施	(実施内容等) 生きがい大学の開催 7回 町民大学の開催 1回 成人講座の開催 2回
【評価・実績】						
第5期計画からの継続(継続有り)	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回
後期計画への継続(継続有り)	98%	37%	0%	0%	0%	3%
全体達成率	19%	26%	26%	26%	26%	26%
備考欄						

事業名	生涯学習推進事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各学級、講座の開設数
抱える課題やニーズ	町民のニーズに合わせた学習機会の創出	指標(指標計算式/解説) ① 生きがい大学10回 町民大学4回 成人講座2回	目標年度 令和4年度 目標値 16回 実績値 10回 達成度 62.5 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学習機会の提供により、町民の生涯を通じた学習意欲の充実	②	目標年度 年度 目標値 達成度
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果=目的	生涯学習を通じ、各世代の町民一人ひとりの人生の充実のみならず、その学習成果を地域社会に還元することにより、地域活性化が図られる。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	生きがい大学 町民大学 成人講座	講演会、運動教室、移動学習会の開催並びに紋別地区高齢者教室交流の集いへの参加 講演会の開催 書道講座及び木育講座の開催	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	町民の生涯学習活動参加の誘引は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	☐ 全部	
必要/概ね必要/課題あり	☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施回数を減らしたことから、目標値の達成は出来なかったものの、事業効果は概ね有効と判断される。
有効/概ね有効	☐ 達成	
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☒ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	近隣地区の講師を選定することや職員が講師となることにより、事業費の抑制が図られ、効率的であった。
効率的/概ね効率的	☒ 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 人量削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全町民に対する学習機会の提供であることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B 町民の貴重な学習機会となっている事業ではあるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催数は目標値を下回る結果となった。		



継続/現状維持		
生涯教育は、全町民の人生の充実に必要不可欠であることから、社会情勢を考慮し、さらなる学習内容の充実とニーズに沿った企画・立案を行い、今後も継続的な学習機会を提供していく必要がある。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画画面前期実施計画画面書

様式1

No. 12020020

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度		B	
	1	生涯学習活動の推進	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
	事業名	武雄市児童交流事業				
事業期間	平成30年度～令和4年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	武雄市への児童派遣及び受入れ					
事業目標	派遣児童16名、引率者4名及び受入れ児童16名					
町民参加	有					
町民協働	有					

計画内容	全体計画内容	令和 3 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容	
	武雄市への児童派遣及び受入れ	派遣 経費 報酬費 旅費 需用費 負担金 10千円 596千円 45千円 1,904千円 受入 経費 報酬費 旅費 需用費 使用料 40千円 3千円 193千円 12千円	派遣 経費 報酬費 旅費 需用費 負担金 24千円 10千円 602千円 51千円 1,254千円 受入 経費 報酬費 旅費 需用費 使用料 40千円 3千円 199千円 21千円	派遣 経費 報酬費 旅費 需用費 負担金 24千円 10千円 602千円 51千円 1,254千円 受入 経費 報酬費 旅費 需用費 使用料 40千円 3千円 199千円 21千円	派遣 経費 報酬費 旅費 需用費 負担金 24千円 10千円 602千円 51千円 1,254千円 受入 経費 報酬費 旅費 需用費 使用料 40千円 3千円 199千円 21千円	
		事業費	12,122	2,700	2,810	2,204
		実績事業費	6,048	1,671	1,853	1,798

関連事項	特定財源の名称	武雄市児童交流事業 参加者負担金	【評価・実績】	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名</
------	---------	---------------------	---------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-------------------

事業名	武雄市児童交流事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	派遣児童11人 受入児童11人
抱える課題やニーズ	児童による異なる地域の文化や生活を体験する機会や地域間交流の機会が不足している。	① 派遣児童	目標年度 令和4年度 11人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	児童の健全育成及び児童による地域間交流の推進		実績年度 0人
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	本町の将来を担う人材の育成と、友好都市である武雄市との地域間交流の更なる発展	② 武雄市児童受入	達成度 0.0 %
	雄武町児童の派遣		目標年度 令和4年度 11人
	武雄市児童の受入		実績年度 11人
内容(どのような手段で何を行なったか)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止とした。 武雄市児童11人・引率者3人を受入れ、学校交流、夕食交流会等の実施		達成度 100.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして受当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	児童の健全育成と地域間交流のため、本事業は必要である。
必要／概ね必要	☐	全部	
／課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、雄武町からの児童派遣は中止となり、武雄市からの児童受入れのみとなったため、目標値を下回ったが、相互の地域を理解し合う文化交流ができたことから、概ね有効と判断される。
有効／概ね有効	☐ 達成	
／課題あり	☒ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	武雄市派遣は中止になったものの、実績のある業者へ航空チケット等を早期に発注することにより、経費の削減に努めた。
効率的／概ね効率的	☒ 事業費抑制	
／課題あり	☐ 人量削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	派遣児童は小学5年・6年生に対して、等しく募集を行っており、かつ、受益者負担を求めていることから、公平性は保たれている。
公平／概ね公平	☒ 受益者負担がある	
／公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益者が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、雄武町児童の派遣を中止し、武雄市児童の受入れのみとなったが、コロナ禍で制約があるなかで相互の地域間交流を実施した。		



継続／内容の見直し・変更		
地域間交流の継続実施ができるよう、ホームステイから宿泊を伴わないファミリー交流へシフトさせ、参加しやすい内容に見直しをする。		

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020030

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	1	生涯学習活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名		家庭教育推進事業	見直し年度		
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係	#N/A	
事業指標		町内各学校での取り組み		#N/A	
事業目標		全学校での開催		2 ソフト事業	
町民参加		有	ハード・ソフト事業区分		
町民協働		有	関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催
	事業費(千円)	1,410	290	290	290	290
	財源	国庫支出金	0			
	事業費	道支出金	0			
	内	地方債	0			
	訳	その他	0			
	事業費	1,410	290	290	290	290
	財源	国庫支出金	375	54	3	11
	内	道支出金	0			
	事業費	地方債	0			
実 績	財源	その他	0			
	内	事業費	375	54	203	
	訳	一般財源	104			
	特定財源の名称	(実施内容等)	54	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		各学校の学級開設助成支援		開設学級1学級	開設学級1学級	開設学級2学級
		開設学級1学級		開設学級1学級	開設学級1学級	開設学級1学級
		家庭教育講演会		家庭教育講演会	家庭教育講演会	家庭教育講演会
		参加者131名		参加者137名	参加者48名	
	【評価・実績】	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持
関 連 事 項	第5期計画からの継続	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催
	(継続有り)	36%	22%	1%	70%	4%
	後期計画への継続	7%	11%	11%	26%	27%
	(継続有り)	備 考				

事業名	家庭教育推進事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	河原 学 高田 勉
-----	----------	----------------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	小学生・中学生及びその保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	講演会の開催と開設学校数
抱える課題やニーズ	親と子が共に学ぶ機会やられ合う機会が不足している。	① 家庭教育講演会(1回) 家庭教育学級(4回)	目標年度 令和4年度 実績値 5回 達成度 2回 40.0%
どのような状態になることを目指したのか(意図)	コミュニケーションを通して親子で一緒に考え、取り組む機会を作ることにより、家庭における教育力の向上を図る。	②	目標年度 令和4年度 実績値 達成度
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果=目的	全ての教育の根幹にある家庭教育の充実により、子ども達が生活していくうえで必要な生活習慣や豊かな社会性が身につけられる。		目標年度 令和4年度 実績値 達成度
内容(どのような手段で何を 行ったか)	家庭教育講演会の開催 家庭教育学級の開設	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止とした。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	家庭教育に関する学びを創出する場の提供は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	☐	全部	
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、家庭教育講演会を未実施としたほか、家庭教育学級の開設は目標値には至らなかったものの、家庭教育の充実のため、事業効果は概ね有効と判断される。
有効/概ね有効	☐ 達成	
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☒ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	親子での学習と合わせ、武雄市児童との交流も合同実施できたことから、効率的な事業効果が得られた。
効率的/概ね効率的	☐ 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象者が誰でも参加できる内容であったため、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

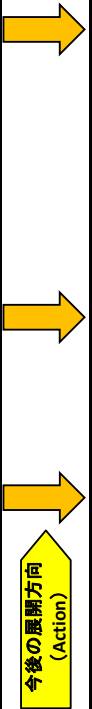
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会は中止し、また、学級の開設も予定数を下回った。		



継続/現状維持	
家庭教育学級に対する支援については、制度が十分認知されていない状況にあることから周知徹底を図り、利用増を目指す。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020040

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	1	生涯学習活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名		社会教育関係団体活動費補助事業	見直し年度		
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係	#N/A	
事業指標		社会教育関係団体の育成		#N/A	
事業目標		社会教育関係3団体への助成		#N/A	
町民参加		有	ハード／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民協働			関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	社会教育関係団体への活動費補助	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円
	事業費(千円)	3,250	650	650	650
	財源	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0			
	事業費	3,250	650	650	650
	実績	3,150	650	650	650
	財源	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0			
	事業費	3,150	650	650	650
	特定財源の名称	(実施内容等) 雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	(実施内容等) 雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	(実施内容等) 雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	(実施内容等) 雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 3団体への助成	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 3団体への助成	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 3団体への助成	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 3団体への助成
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 100%	100%	100%	100%
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 20%	40%	77%	97%
関連事項		備 考			

事業名	社会教育関係団体活動費補助事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	教育振興課長 社会教育係長	河原 学 高田 勉
-----	-----------------	----------------------------	------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	社会教育関係団体	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	3団体への助成
抱える課題やニーズ	人口減少や少子高齢化によって、社会教育団体の活動が停滞傾向にある。	① 文化連盟 子ども育成会 PTA連合会	目標年度 実績年度 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	社会教育団体については自主財源に乏しいことから、活動費の一部を助成することによって活発な活動を促す。	②	目標年度 実績年度 達成度
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	文化活動や地域活動を通じ、町民の交流機会の創出のほか地域活性化が図られる。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	社会教育関係団体への助成		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	社会教育活動を担う中核的団体に対する支援は、町の活性化につながり、また、町民の交流を深め様々なつながりが生まれることによって、地域の学びに貢献する。
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	全部	
	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	各団体においては、活発に事業展開をしていることから、有効と判断される。
有効／概ね有効 ／課題あり	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業内容、予算及び決算を精査し、適正な支援を行っていることから、効率性は保たれている。
効率的／概ね効率的 ／課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	社会教育活動を推進する中核的団体に対する支援であることから、公平性は保たれている。
公平／概ね公平 ／公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各社会教育関係団体は、いすれも自主事業の展開を図っており、それぞれの分野において、本町の社会教育推進に寄与している。		



継続／現状維持	本町の社会教育推進のため、各社会教育関係団体に対する支援を行う本事業は、継続していく必要がある。
---------	--

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020050

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	2	生涯スポーツ活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名		社会体育団体活動費助成事業	見直し年度		
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係	#N/A	
事業指標		団体数		#N/A	
事業目標		体育連盟～20 スポーツ少年団～4		2 ソフト事業	
町民参加		有	ハード／ソフト事業区分	無	
町民協働		有	関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全体計画		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	体育連盟・スポーツ少年団への活動費助成	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)
	事業費(千円)	2,700	540	540	540	540
	財源	国庫支出金				
	事業費内訳	道支出金				
		地方債				
		その他				
	事業費	2,700	540	540	540	540
	実績	2,700	540	540	540	540
	財源	国庫支出金				
	事業費内訳	道支出金				
		地方債				
		その他				
	事業費	2,700	540	540	540	540
	特定財源の名称	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)
関連事項	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	2団体への助成	2団体への助成	2団体への助成	2団体への助成	2団体への助成
	後期計画への継続 (継続有り)	100%	100%	100%	100%	100%
		20%	40%	60%	80%	100%
	備考					

事業名	社会体育団体活動費助成事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	体育連盟・スポーツ少年団本部	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	加盟団体の維持
抱える課題やニーズ	町内の各スポーツ団体・少年団活動の活性化	① スポーツ協会加盟団体数	目標年度 令和4年度 実績年度 13団体 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町内の各スポーツ団体・少年団活動は、いずれも自主財源に乏しいことから、体育連盟及びスポーツ少年団本部を通じて、活動費の一部を助成することにより、活発な活動を促す。	② スポーツ少年団加盟団体数	目標年度 令和4年度 実績年度 3団体 達成度 100.0 %
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	スポーツに親しむ町民の拡充とスポーツを通じて地域の活性化を図る。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	団体への助成 スポーツ協会(400千円)、スポーツ少年団(140千円)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして受当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	町内の各スポーツ団体及び少年団は、スポーツ活動を通じて地域の活性化や将来の指導者を育成する役割を担っていることから、基幹団体となるスポーツ協会及びスポーツ少年団を通じて育成・支援は、教育行政が担う必要がある。
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	全部	
	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	スポーツ協会及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、加盟団体は主催事業や参加事業を通じて主体的な活動を行っていることから、有効と判断される。
有効／概ね有効 ／課題あり	☐	達成	
	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	判断の理由	補助金を交付するにあたり、事業内容、予算及び決算を精査し、適正な助成を行っていることから、効率性は保たれている。
効率的／概ね効 率的／課題あり	☐	事業費抑制	
	☐	人量削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	社会体育活動を推進する中核的団体に対する助成であることから、公平性は保たれている。
公平／概ね公平 ／公平でない	☐	受益者負担がある	
	☐	受益者負担がない	
	☐	受益者が一部に偏る	
	☒	その他	

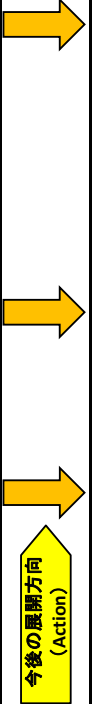
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
スポーツ協会及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、加盟団体が活発に活動しており、本町のスポーツ振興に寄与している。		



継続／現状維持	
本町のスポーツ推進のため、各スポーツ団体・少年団の育成、支援を行う本事業は継続していく必要がある。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12020070

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	2	生涯スポーツ活動の推進	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町スポーツ振興事業		見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係	#N/A	
事業指標	申請件数			#N/A	
事業目標	個人2 団体1		ハード・ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	各種大会に出場する個人・団体への経費の補助	関係例規・法令名	有 雄武町スポーツ振興事業補助金交付要綱	
町民協働			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
計 画 内 容	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助
	各種スポーツの分野で全道大会以上に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。					
	事業費(千円)	4,637	400	400	650	1,887
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	4,637	400	400	650	1,887
	事業費(千円)	3,504	261	710	371	1,292
	国庫支出金	0				
実 績	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	3,504	261	710	371	1,292
	特定財源の名称			(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		高校陸上部 196千円(7名)	高校陸上部 494千円(15名)	高校陸上部 298千円	高校陸上部 920千円(14名)	高校陸上部 662千円
		高校陸上部 65千円(1名)	個人(雄卓会) 16千円(4名)	高校卓球部 73千円	高校卓球部 71千円(2名)	高校卓球部 28千円
			高校ソフトテニス部91千円(3名)	高校卓球部 106千円(5名)	高校ソフトテニス部 80千円(2名)	高校卓球部 131千円
			高校卓球部109千円(5名)	個人(雄卓会) 115千円	個人(雄卓会) 106千円(5名)	個人(卓球) 49千円(2名)
関 連 事 項	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	個人2、団体1	個人2、団体1	個人2、団体2	個人2、団体2	個人4、団体4
	後期計画への継続 (継続有り)	65%	178%	57%	68%	67%
		6%	21%	29%	57%	76%
		備 考				

事業名	雄武町スポーツ振興事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	教育振興課長 社会教育係長	河原 学 高田 勉
-----	-------------	----------------------------	------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の 根拠、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	大会出場個人(2人)、団体(1団体)
抱える課題やニーズ	スポーツにおける全道・全国大会への出場に対する経済的負担の軽減	指標(指標計算式/解説) ① 個人 目 標 年 度 目 標 値 令和4 年度 2 人 実 績 値 2 人 達成 度 100.0 % ② 団体 目 標 年 度 目 標 値 令和4 年度 1 団体 実 績 値 3 団体 達成 度 300.0 %	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	全道・全国大会出場に対する経済的負担を軽減することにより、レベルの高い大会への出場意欲の向上が図られる。		
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	レベルの高い大会への出場を促進することにより、本町のスポーツ愛好家の競技に関する技術や意識の向上のほか、将来的な指導育成効果もあることから、本町のスポーツの活性化が図られる。		
内容(どのような手段で何を行なったか)	全道・全国大会出場の助成		
	全道・全国大会出場者(団体)に対する助成金の支出		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	高いレベルの大会に出場することは、出場者の競技レベルの向上につながるほか、本町のPR効果も期待できることから、出場者の大会出場に係る経済的負担軽減は教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	☐ ☐ ☐	全部 一部 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	目標を大幅に上回る制度の利用があったことから、本町スポーツ活動の活性化と競技意欲及びレベルの向上が図られている。
有効/概ね有効/課題あり	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	申請内容を精査の上、実費に対して基準に基づく定率の補助を行っていることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大会成績を基準に助成していることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益者が一部に偏る ☐ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 大会出場者数が目標値を大幅に上回っており、経済的負担を軽減することにより、本町のスポーツの活性化に効果があった。		



継続/現状維持 スポーツ活動の推進、指導者育成、大会出場者が培った技術の町民への還元、本町のPR効果など、多くの効果が期待できることから、継続する必要がある。		
--	--	--

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020091

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度		B	
単位施策	2	生涯スポーツ活動の推進	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		生涯スポーツ推進事業	見直し年度			
事業期間		令和元年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係課		#N/A	
事業指標		参加者数			#N/A	
事業目標		参加者300人	ハード・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加		有	関係例規・法令名		無	
町民協働			関係個別計画名		無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業 内 容	令和 元 年度 事業 内 容	令和 2 年度 事業 内 容	令和 3 年度 事業 内 容	令和 4 年度 事業 内 容
計 画 内 容	スポーツ大会の開催		スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催
	1 さわやかスポーツ大会		1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会
	2 雪合戦		2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦
	3 自治会対抗スポーツ大会		3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会
	4 オムリンピック		4 自治会対抗スポーツ大会	4 自治会対抗スポーツ大会	4 自治会対抗スポーツ大会	4 自治会対抗スポーツ大会
	5 キンボール大会		5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会
	スポーツ教室等の実施		スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施
	1 学社融合ブルームボール教室		1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室
	2 AED講習会		2 AED講習会	2 AED講習会	2 AED講習会	2 AED講習会
	3 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！		3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業
実 績	事業費(千円)	4,244	0	1,170	1,050	974
	財源					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	4,244		1,170	1,050	974
	事業費(千円)	826	0	359	204	155
	財源					
	国庫支出金	0				
関連事項	特定財源の名称					
	【評価・実績】					
	さわやかスポーツ大会		さわやかスポーツ大会	さわやかスポーツ大会(2団体)	さわやかスポーツ大会(2団体)	さわやかスポーツ大会(1団体)
	自治会対抗スポーツ大会		自治会対抗スポーツ大会	学社融合ブルームボール大会	自治会対抗スポーツ大会	自治会対抗スポーツ大会
	キンボール大会		キンボール大会	遊びの総合運動事業	キンボール大会	遊びの総合運動事業
	学社融合ブルームボール教室		学社融合ブルームボール教室	遊びの総合運動事業	遊びの総合運動事業	学社融合ブルームボール教室
	AED講習会		AED講習会	遊びの総合運動事業	遊びの総合運動事業	学社融合ブルームボール教室
	遊びの総合運動事業		遊びの総合運動事業	遊びの総合運動事業	遊びの総合運動事業	学社融合ブルームボール教室
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	A-継続/現状維持		A-継続/現状維持	B-継続/現状維持	B-継続/現状維持	B-継続/現状維持
第5期計画からの継続	年度目標値	大会参加者300人	大会参加者300人	大会参加者200人	大会参加者200人	大会参加者200人
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	31%	10%	16%
	全体達成率			8%	13%	19%
	備考欄					

事業名	生涯スポーツ推進事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町民	大会参加者
抱える課題やニーズ	人口減少や少子高齢化により、町民がスポーツに親しむ機会やスポーツ活動が減少している。	大会参加者
どのような状態になることを目指したのか(意図)	各種スポーツ大会やスポーツ教室などを複合的かつ機動的に開催することで、幅広い年齢層の町民がスポーツに親しみ、スポーツを通じた交流や健康増進に繋げる。	大会参加者
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	包括的なスポーツ活動が推進されることで、スポーツを通じた地域の活性化が図られる。	大会参加者
内容(どのような手段で何を 行ったか)	スポーツ大会の開催 スポーツ教室の開催	大会参加者

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要/概ね必要	☐	全部
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☐ 達成
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成
	☒ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 事業費抑制
	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☒ その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
スポーツ大会の減少の影響もあり、参加者数は目標値を下回る結果となった。		



継続/内容の見直し・変更	
町民のニーズに沿ったスポーツ大会やスポーツ教室を開催することにより、町民がスポーツに親しむ機会やきつかけづくりを推進していく必要がある。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12020100

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	4	芸術・文化の振興	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	芸術文化公演事業					
事業期間	平成30年度～令和4年度					
事業主体	雄武町					
事業目標	芸術文化鑑賞機会の充実					
事業目標	保育所・親子・小・中・高等学校・一般鑑賞会の開催					
町民参加	無					
町民協働						

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
計 画 内 容	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会	中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会	中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会
	事業 費 (千円)	10,975	1,500	825	3,825	1,625
	財 源	0				
	国庫支出金	0				
	道支 出 金	0				
	地 方 債	0				
	内 債	0				
	そ の 他	1,000		0	1,000	
	記 載	9,975	1,500	825	2,825	1,625
	事業 費 (千円)	6,682	1,336	660	1,000	946
実 績 事 業 費	国庫支出金	0				
	道支 出 金	0				
	地 方 債	0				
	内 債	0				
	そ の 他	0				
	記 載	6,682	1,336	660	1,000	946
	特定財源の名称	(実施内容等) 保育所・小学生(315名)2公演 中学校・高等学校・一般 (360名)2公演	(実施内容等) 保育所・小学生(333名)2公演 中学校・高等学校・一般 (178名)1公演	(実施内容等) 中学校・高等学校(184名)	(実施内容等) 中学校・高等学校(190名) 文化講演会(150名)	(実施内容等) 中学校・高等学校(132名) 文化講演会(150名)
	いきいきふさと推進事業助成金	【 評 価 ・ 実 績 】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 鑑賞会の開催	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 鑑賞会の開催	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 鑑賞会の開催	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持 鑑賞会の開催
	第5期計画からの継続 (継続有り)					
	後期計画への継続 (継続有り)					
年度目 標 値						
年度達成率						
関 連 事 項	第5期計画からの継続 (継続有り)	86%	89%	80%	26%	58%
	後期計画への継続 (継続有り)	25%	37%	43%	52%	61%
	備 考					

事業名	芸術文化公演事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	鑑賞会回数
抱える課題やニーズ	都市圏から離れていることから、様々な芸術・文化に触れる機会が不足している。	① 指標(指標計算式/解説)	目標年度 令和4年度 3回
どのような状態になることを目指したのか(意図)	様々な芸術・文化に触れる機会を創出し、町民の芸術・文化に対する興味や理解を促進する。	開催回数	実績年度 令和4年度 2回
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果=目的	町民の芸術・文化活動への興味や理解が深まり、町の文化的な取り組みが活性化している。	達成率	66.7 %
内容(どのような手段で何を 行ったか)	芸術鑑賞会の開催 文化講演会の開催	目標年度 令和4年度 3回	実績年度 令和4年度 2回

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	町民の芸術・文化に対する興味や理解を深めるため、様々な芸術や文化に触れる機会を創出することは、生涯学習の一環として必要な取組である。
必要/概ね必要	☐	全部	
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	芸術鑑賞会では、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴い、中高校生のみ鑑賞機会を提供したものの、町民の芸術・文化活動の充実のため、事業効果は概ね有効と判断される。
有効/概ね有効	☐ 達成	
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☒ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率性	判断の理由	中高校生については、学校等の要望を取り入れながら、計画どおり実施し、文化講演会は、ニーズの高い講演を実施することができた。
効率性/概ね効率性	☐ 事業費抑制	
効率性/概ね効率性/課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	幅広い年代層を対象としていることから、公平は保たれている。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益者が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
町民の芸術・文化への興味付けや関心が培われ、芸術・文化活動に対する理解を深めることができたが、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴い、予定していた保育所、小学校の鑑賞機会の支援が出来なかった。		



継続/現状維持	
生涯学習の観点から、芸術・文化活動は必要な取組みであることから、今後も継続していく必要がある。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020110

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	4	芸術・文化の振興	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	陶芸推進事業		見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係	#N/A	
事業指標	工居利用者への支援及び作陶技術の向上			#N/A	
事業目標	管理体制と愛好者への指導及び普及推進			2 ソフト事業	
町民参加	有	町民を対象とし陶芸活動の推進を図っている	ハード／ソフト事業区分	無	
町民協働			関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業 内 容	令和 元 年度 事業 内 容	令和 2 年度 事業 内 容	令和 3 年度 事業 内 容	令和 4 年度 事業 内 容
計 画 内 容	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工居施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催
	事業費(千円)	4,585	890	935	935	935
	財源	国庫支出金	0			
	事業費	道支出金	0			
	内	地方債	0			
	訳	その他	0			
	事業費	一般財源	890	935	935	935
	実績	事業費(千円)	4,702	807	1,043	1,118
	実績	国庫支出金	0			
	事業費	道支出金	0			
関 連 事 項	特定財源の名称	872	807	862	1,043	1,118
		(実施内容等)	施設管理と愛好者支援	(実施内容等)	施設管理と愛好者支援	(実施内容等)
		【評価・実績】	施設管理と愛好者支援	施設管理と愛好者支援	施設管理と愛好者支援	施設管理と愛好者支援
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		Aー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持
		利用者700人	利用者700人	利用者700人	利用者700人	利用者700人
	第5期計画からの継続	98%	91%	92%	112%	120%
	(継続有り)	年度目標達成率	年度達成率	年度達成率	年度達成率	年度達成率
	後期計画への継続	19%	37%	55%	78%	103%
	(継続有り)	全体達成率	全体達成率	全体達成率	全体達成率	全体達成率

事業名	陶芸推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		利用者数
誰、何が(対象)	町民	指標(指標計算式/解説)		目 標 年 度
抱える課題やニーズ	陶芸工房施設の適切な維持管理と利用の促進	①		目 標 年 度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	良好な施設環境の維持と愛好者(利用者)に対する活動支援	利用者数		目 標 値
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	本町における陶芸工房の活性化及び幅広い町民への普及	②		実 績 値
				達 成 度
				目 標 年 度
				実 績 値
				達 成 度
内容(どのような手段で何を 行ったか)		施設管理と愛好者への陶芸の指導		年 度
		陶芸教室(雄武小、沢木小、共栄小)の開催		

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
本町での陶芸活動は、自主活動と併せて、愛好者達により、文化祭等での作品展示などの活動もしており、社会教育活動にも積極的に取り組んでいる。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持	
適切な施設管理・運営が行われており、より多くの町民への普及促進のため、継続して支援していく必要がある。	

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況
有効／概ね有効	☐ 達成
有効／概ね有効 ／課題あり	☒ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率性	判断の理由
効率性／概ね効率性 ／課題あり	☐ 事業費抑制
	☐ 人量削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☒ その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由
公平／概ね公平	☒ 受益者負担がある
公平／概ね公平 ／公平でない	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益者が一部に偏る
	☐ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020120

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	4	芸術・文化の振興	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町芸術文化振興事業		見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係	#N/A	
事業指標	申請件数			#N/A	
事業目標	個人2 団体1		ハード・ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	各種大会に出場する個人・団体への経費の補助	関係例規・法令名	有 雄武町芸術文化振興事業補助金交付要綱	
町民協働			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
計 画 内 容	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助
	芸術文化の分野で全道大会以上に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。					
	事業費(千円)	1,500	300	300	300	300
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	1,500	300	300	300	300
	事業費(千円)	158	110	48	0	0
	国庫支出金	0				
実 績	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	158	110	48	0	0
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		個人(全道) 1名	個人(全国) 1名			
		個人(全国) 2名				
	【評価・実績】					
関 連 事 項	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	Aー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持	Bー継続/現状維持
	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1
	年度目標値	37%	16%	0%	0%	0%
	年度達成率	7%	11%	11%	11%	11%
後 期 計 画	第5期計画からの継続 (継続無し)					
	後期計画への継続 (継続有り)					
	備 考					

事業名	雄武町芸術文化振興事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	教育振興課長 社会教育係長	河原 学 高田 勉
-----	-------------	----------------------------	------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		大会出場個人(2人)、団体(1団体)	
抱える課題やニーズ	芸術文化における全道・全国大会への出場に対する経済的負担の軽減	指標(指標計算式／解説)		目 標 年 度 目 標 年 度 令和4 年度	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	全道・全国大会出場に対する経済的負担を軽減することにより、レベルの高い大会への出場意欲の向上が図られる。	① 個人		目 標 年 度 目 標 年 度 令和4 年度	2 人
その結果、どのような成果を實現したいか ※成果＝目的	レベルが高い大会への出場を促進することにより、本町の芸術文化に関する技術や意識の向上のほか、将来的な指導育成効果もあることから、本町の芸術文化の活性化が図られる。	② 団体		目 標 年 度 目 標 年 度 令和4 年度	1 団体
内容(どのような手段で何を行ったか)	全道・全国大会出場の助成	達成 度 0.0 %		目 標 年 度 目 標 年 度 令和4 年度	0 団体
		達成 度 0.0 %		目 標 年 度 目 標 年 度 令和4 年度	0.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
／課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況
有効／概ね有効	☐ 達成
／課題あり	☐ ほぼ達成
	☒ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率性	判断の理由
効率性／概ね効率性	☐ 事業費抑制
／課題あり	☐ 人員削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☒ その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由
公平／概ね公平	☒ 受益者負担がある
／不公平でない	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益者が一部に偏る
	☐ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
事業活用者がいなかったため、目標値には達しなかったものの、経済的負担を軽減することによって、全道・全国大会への出場意欲の促進効果はある。		



継続／現状維持	
全道・全国大会への出場意欲と芸術文化活動の推進が期待されることから、周知を強化し、活用しやすい環境をつくりをしつつ、継続する必要がある。	

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020130

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】日協働によるまちづくりの推進～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	20	町民主体のまちづくりの推進	事業優先度	A	
単位施策	3	町民との協働体制の構築			
事業名		学校支援活動推進事業			
事業期間	平成30年度～令和4年度		政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業主体	雄武町		見直し年度		
事業目標	コーディネーターの配置、学校支援ボランティアの養成及び活動支援		担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業目標	コーディネーターの1名配置、学校支援活動実施		関係	#N/A	
町民参加	有		ハード・ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民協働			関係例規・法令名		
			関係個別計画名	無	

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	コーディネーターの配置 学校支援活動の実施	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円
	事業費(千円)	200	200	200	200	200
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	事業費(千円)	200	200	200	200	200
	国庫支出金	497	66	138	105	55
	道支出金	0				
	地方債	0				
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等) 読書活動支援校 5校 学習支援 6種類	(実施内容等) 読書活動支援校 5校 学習支援 6種類	(実施内容等) 読書活動支援校 5校 学習支援 6種類	(実施内容等) 読書活動支援校 4校 学習支援 2種類	(実施内容等) 読書活動支援校 3校 学習支援 2種類
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	支援活動5校、コーディネーターの配置1名 33%	支援活動5校、コーディネーターの配置1名 69%	支援活動5校、コーディネーターの配置1名 53%	支援活動5校、コーディネーターの配置1名 67%	支援活動5校、コーディネーターの配置1名 28%
	後期計画への継続 (継続有り)	7%	20%	31%	44%	50%
	備 考					
	年度目標値					
	年度達成率					
	全体達成率					

事業名	学校支援活動推進事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	教育振興課長 社会教育係長	河原 学 高田 勉
-----	------------	----------------------------	------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町内小中学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	希望する学校の支援
抱える課題やニーズ	学校が要望する支援内容に応じたボランティアの発掘・派遣及びコーディネーターの配置	指標(指標計算式/解説) ① 小学校 3校 中学校 1校	目標年度 令和4年度 実績値 4校 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域全体で学校教育を支援する体制づくり	②	目標年度 実績値 達成度
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果=目的	地域の教育力を活用することで子どもたちに多様な体験・経験の機会を提供し、効果的な教育活動を図る。		目標年度 実績値 達成度
内容(どのような手段で何を 行ったか)	ボランティア募集 読書支援 学習支援	学校支援ボランティアを募集し、人材確保を行った。 読み聞かせ(町内各小中学校) 長期休業期間中の学習支援、スキー授業支援(雄武小・共栄小)、柔道授業支援を実施	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	地域全体で学校教育を支援する体制を構築するため、地域の教育力を活用した多様な教育活動の推進は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	☐ 全部 ☐ 一部		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	設定した目標値の達成状況	学校からの要望に応じ、ボランティアの協力を得て、派遣できたことにより、教育活動の充実が図られ、有効と判断される。
有効/概ね有効/課題あり			

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	判断の理由	町民によるボランティアの協力を得て実施しているとともに、学校備品等を活用していることから、可能な限り事業費の抑制に努めており、効率性は保たれている。
効率的/概ね効率的/課題あり			

(4)事務事業の公平性

公平	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	判断の理由	地域の教育力を活用することで、学校教育を支援するもので、ボランティア活動を通じた地域コミュニティの活性化が図られることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない			

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
関係機関との連携により、様々な活動に地域ボランティアが多く関わり、学校教育の充実が図られた。		



継続/現状維持		
地域による学校支援は、児童生徒の教育向上につながるだけでなく、地域コミュニティの活性化にも期待できることから、継続して支援する必要がある。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020140

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】白協働によるまちづくりの推進～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	効果的・効率的な行政経営	事業優先度	A		
単位施策	1	計画行政の推進	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会教育中期計画策定事業					
事業期間	令和4年度		見直し年度	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		担当		#N/A	
事業指標	計画策定		関係		#N/A	
事業目標	計画策定		ハート・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町社会教育中期計画策定委員会条例	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
社会教育中期計画策定事業					第10次雄武町社会教育中期計画策定
計画内容	事業費(千円)	600	0	0	600
	財源	国庫支出金	0		
		道支出金	0		
		地方債	0		
		その他	0		
	事業費	600			600
	事業費(千円)	115	0	0	115
	財源	国庫支出金	0		
		道支出金	0		
		地方債	0		
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】			
					策定委員会議開催 計画策定
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値				
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	全体達成率	0%	0%	0%	19%
	備考				19%

事業名	社会教育中期計画策定事業	評価者 管理職 職氏名	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	市民	計画策定
抱える課題やニーズ	第6期総合計画に掲げている目標達成のため、社会教育の分野における今後5年間の実施計画として社会教育中期計画の策定が必要となっている。	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
どのような状態になることを目指したのか(意図)	総合計画に掲げる基本施策及び単位施策に沿った具体的な事業計画の策定	指標(指標計算式/解説)
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	社会教育中期計画に従った事業の実施により、総合計画に掲げる目標が達成される。	① 計画策定 ②
内容(どのような手段で何を行ったか)	第10次社会教育中期計画策定委員会設置 策定委員会議の開催	目 標 年 度 目 標 値 実 績 値 達 成 度 目 標 年 度 目 標 値 実 績 値 達 成 度

21名の委員による策定委員会を設置し、第9次計画の検証を基にした審議	令和4年度 1計画
全体会議3回、専門部会1回、社会体育施設視察の実施	令和5年度 1計画
	100.0 %
	年度
	年度
	年度
	年度

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(市民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	□	義務的なもの
必要/概ね必要	☐	全部
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	今後5年間の社会教育推進の設計図となる計画が完成した。
有効/概ね有効	☒ 達成	
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	計画策定事務は委託せずを目前で行うなど事業費の抑制に努めた結果、低予算で計画を策定することができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	☒ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全市民を対象とした計画であることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☐ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
第6期総合計画に掲げる基本・単位施策を踏まえ、え、社会教育の分野において実施すべき施策を計画として示すことができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持

継続/現状維持	条例に基づき、5年毎に計画を策定する必要があることから継続とする。
---------	-----------------------------------

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020150

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】日協働によるまちづくりの推進～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	効果的・効率的な行政経営	事業優先度	A	
単位施策	3	公共施設の適切な管理	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名		町民センター施設整備事業	見直し年度		
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係	#N/A	
事業目標		施設整備		#N/A	
事業目標		施設整備		#N/A	
町民参加		無	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民協働			関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全体計画内容		平成30年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
計画内容	町民センター施設整備	吊物装置修繕工事 1,231千円 刈払機更新 49千円	電気暖房機改修工事 1,080千円 エアー搬送ファン設置工事 3,120千円	印刷機更新 3,030千円 大集会室照明機器改修 (1期～3期) 47,970千円 町民センター清掃業務委託 370千円 職員用椅子購入 266千円 レーザープリンター他 297千円 教育長室会議用備品 800千円	町民センター長寿命化改修調査委託 1,276千円 教育長室会議用備品 800千円	町民センターWi-Fi環境整備 3,300千円
	事業費(千円)	62,226	1,280	4,200	51,370	2,076
	財源	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 15,000				
	事業費	47,226	1,280	4,200	15,000	
	事業費(千円)	62,710	1,199	4,104	36,370	2,076
	財源	国庫支出金 3,091 道支出金 0 地方債 0 その他 0			4,656	3,108
	事業費	59,619	1,199	4,104		3,091
	特定財源の名称	(実施内容等)	4,104	(実施内容等)	4,656	(実施内容等)
	公共施設整備基金繰入金	吊物装置修繕工事	電気暖房機改修工事	印刷機更新	町民センター長寿命化改修調査委託	町民センターネットワーク環境整備業務委託(R3からの繰越明計)
	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	刈払機更新	エアー搬送ファン設置工事	(その1・2)プリンター、テーブル等	大集会室照明機器改修(R2からの繰越明計)	オンライン機器購入(R3からの繰越明計)
関連事項	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/拡充
	第5期計画からの継続	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設
	年度目標値	94%	98%	9%	2391%	94%
	年度達成率					
	全体達成率	2%	9%	16%	96%	101%
備考						

事業名	町民センター施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町民センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	施設整備
抱える課題やニーズ	町民センターにおけるオンラインを活用した事業推進のための環境整備	指標(指標計算式/解説)	① 施設整備
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的及び適切な整備による、良好な施設環境の維持		②
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	本町の社会教育活動の拠点となる施設であることから、情勢に即した良好な状態を維持すること、本町の社会教育活動の活性化を図ることができる。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	町民センターネットワーク環境整備業務委託 オンライン機器購入		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要/概ね必要	☐	全部
必要/概ね必要/課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況
有効/概ね有効	☒ 達成
有効/概ね有効/課題あり	☐ ほぼ達成
	☐ 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由
効率的/概ね効率的	☐ 事業費抑制
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 人量削減
	☐ 時間短縮・作業軽減
	☒ その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由
公平/概ね公平	☐ 受益者負担がある
公平/概ね公平/課題あり	☐ 受益者負担がない
	☐ 受益者が一部に偏る
	☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおりネットワーク環境を構築し、オンラインを活用した事業を進めるうえでの準備を整えた。		



継続/拡充		
今後については、社会教育活動の拠点としての役割を担っている町民センターの中長期的な視点に立った維持管理や長寿命化を図るため、大規模改修を実施し、社会情勢に合わせた施設環境を整備する。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020160

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】日協働によるまちづくりの推進～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	効果的・効率的な行政経営	事業優先度	A	
単位施策	3	公共施設の適切な管理	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名		体育施設整備事業	見直し年度		
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係	#N/A	
事業目標		施設整備		#N/A	
事業目標		施設整備		#N/A	
町民参加		無	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民協働			関係例規・法令名	無	
			関係個別計画名	無	

全体計画内容	平成30年度事業内容	令和元年度事業内容	令和2年度事業内容	令和3年度事業内容	令和4年度事業内容
体育施設整備	スポーツセンター整備に関する調査・研究	パークゴルフ場看板購入 422千円	武道センター照明LED化 1,870千円	風の丘スキー場除雪機更新 820千円	スポーツセンター備品購入 800千円
1 スポーツセンター	宮の森・風の丘パークゴルフ場	スポーツセンター音響機器購入 1,078千円	スポーツセンターフロアカーベット張替 1,200千円	風の丘スキー場除雪機更新 820千円	スポーツセンター トレーニング室機器更新 11,000千円
2 武道センター	カッブ・ピン取替え 620千円	スポーツセンター			
3 農村広場	(ハマナスコース)	アリーナカーテン交換 1,390千円			
4 パークゴルフ場	(トドマツコース)	ロビー用備品更新 1,900千円			
5 風の丘スキー場	(カッコウコース)				
6 テニスコート	(風の丘コース)				
7 プルムボールコート					
計	22,600	620	3,070	820	13,300
財源	国庫支出金 0				
事業費	道支出金 0				
内	地方債 0				
訳	その他 2,000				2,000
事業費	20,600	620	3,070	820	11,300
実績	26,121	591	1,793	1,860	17,844
財源	国庫支出金 0				
内	道支出金 0				
事業費	地方債 0				
訳	その他 5,947				
事業費	20,174	591	1,793	1,860	5,947
特定財源の名称			(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
スポーツ振興くじ助成金	宮の森・風の丘パークゴルフ場	パークゴルフ場看板購入	武道センター照明LED化	風の丘スキー場除雪機更新	スポーツセンター内装修繕
	カッブ・ピン取替え	スポーツセンター音響機器購入	スポーツセンター	スポーツセンターフロアカーベット張替 (R2からの繰越明許)	トレーニング室機器更新
	(ハマナスコース)	スポーツセンター	アリーナカーテン交換		武道センター暖房設備設置
	(トドマツコース)	スポーツセンター	ロビー用備品更新		
	(カッコウコース)				
	(風の丘コース)				
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	Aー継続/現状維持	Aー継続/現状維持	Aー継続/現状維持	Aー継続/現状維持	Aー継続/現状維持
第5期計画からの継続	施設整備 1施設	施設整備 2施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 2施設
	95%	84%	58%	227%	134%
後期計画への継続	3%	20%	28%	37%	116%
備 考					

事業名	体育施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	社会教育係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	町民	社会体育施設整備
抱える課題やニーズ	体育施設の建物及び設備の老朽化が進んでいる。	目標年度 令和4年度 令和5年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的及び適切な整備による、良好な施設環境の維持	実績年度 2施設
その結果、どのような成果を 実現したのか ※成果＝目的	本町のスポーツ活動の拠点となる施設を良好な状態に維持することで、本町のスポーツ活動の活性化を図ることができる。	達成率 100.0 %
内容(どのような手段で何を 行ったか)	トレーニング室の設備更新 武道センター暖房設備設置 豊丘小学校の暖房機器を移設設置	目標年度 令和4年度 令和5年度

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの
必要／概ね必要	☐	全部
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	一部

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	達成
有効／概ね有効	☐	ほぼ達成
有効／概ね有効 ／課題あり	☐	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	事業費抑制
効率的／概ね効率的	☐	人量削減
効率的／概ね効率的 ／課題あり	☐	時間短縮・作業軽減
	☒	その他

(4)事務事業の公平性

公平	☐	受益者負担がある
公平／概ね公平	☐	受益者負担がない
公平／概ね公平 ／公平でない	☐	受益者が一部に偏る
	☒	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
スポーツセンターの機器の充実など、実情に合わせた施設設備の更新を行った。		



継続／現状維持	
スポーツ活動の拠点となる施設を良好な状態に保つことは、スポーツ活動の活性化により、町民の健康寿命の延伸に効果が期待されることから、施設整備を継続していく必要がある。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12020170

政策目標	5	【連帯感を高める協働のまち・雄武】日協働によるまちづくりの推進～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	効果的・効率的な行政経営	事業優先度	B		
単位施策	3	公共施設の適切な管理	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会体育施設委託業務事業		見直し年度			
			担当課	12	教育委員会教育振興課	
			関係		#N/A	
			ハード・ソフト事業区分	2	ソフト事業	
			関係例規・法令名			
事業期間	平成30年度～令和4年度		関係個別計画名	無		
事業主体	雄武町					
事業指標	委託施設数					
事業目標	4施設					
町民参加						
町民協働	無					

全体計画内容		平成30年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
各施設の管理業務委託						
計画内容	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場 2 宮の森・風の丘パークゴルフ場 3 農村広場 4 ブルームボールコート	1 風の丘スキー場 2 宮の森・風の丘パークゴルフ場 3 農村広場 4 ブルームボールコート	1 風の丘スキー場 2 宮の森・風の丘パークゴルフ場 3 農村広場 4 ブルームボールコート	1 風の丘スキー場 2 宮の森・風の丘パークゴルフ場 3 農村広場 4 ブルームボールコート	1 風の丘スキー場 2 宮の森・風の丘パークゴルフ場 3 農村広場 4 ブルームボールコート
	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場					
	3 農村広場					
	4 ブルームボールコート					
	事業費(千円)					
	国庫支出金					
	道支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源					
実績	事業費(千円)	【評価・実績】	7,950 7,722	8,880 8,511	10,000 9,231	9,920 9,487
	国庫支出金					
	道支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源					
	特定財源の名称					
関連事項	第5期計画からの継続 (継続有り)	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 4施設の委託業務	97% 17%	96% 35%	92% 55%	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持 4施設の委託業務 96% 75%
	後期計画への継続 (継続有り)					
	年度目標値					
	年度達成率					
	全体達成率					

事業名	社会体育施設委託業務事業	評価者 管理職 職氏名 評価者 作成者 職氏名	教育振興課長 社会教育係長	河原 学 高田 勉
-----	--------------	----------------------------	------------------	--------------

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業の目的・内容(Plan・Do)	各社会体育施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	4施設の委託業務
抱える課題やニーズ	施設の適切な維持管理	指標(指標計算式/解説) ① 風の丘スキー場 宮の森・風の丘パークゴルフ場 農村広場 ブルームボールコート	目標年度 令和4年度 実績年度 4施設 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	民間活力の利用による効率的な体育施設の維持管理と、柔軟なサービスの提供	②	目標年度 実績年度 達成度
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	維持管理コストを抑制することで、町の財政的負担を軽減するとともに、利用者に対してより良いサービスの提供が図られる。		
内容(どのような手段で何を 行ったか)	各社会体育施設の管理委託 風の丘スキー場、宮の森・風の丘パークゴルフ場、農村広場、ブルームボールコート		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	各施設は、不特定多数の利用があり、受付。備品貸出等の業務が発生することから、管理人の常駐が必要である。また、民間活力を活用した効率的な維持管理のため、本事業は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	☐ ☐ ☐	全部 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設の安全管理は十分行われており、良好な状態を保っている。
有効/概ね有効/課題あり	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率性	判断の理由	指名競争入札及び見積合わせにより業者選定を実施し、適切なコストで事業を実施することができた。
効率性/概ね効率性/課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民が広く利用する施設の維持管理業務であることから、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
施設の適切かつ効率的な維持管理が図られた。		



継続/現状維持	
施設の維持管理は今後も必要であることから、継続していく必要がある。	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

No. 12030010

政策目標	3	達成感から学ぶ教育のまち・雄武】日教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載		
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A				
単位施策	3	図書サービスの充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)				
事業名	読書促進事業		見直し年度					
	平成30年度～令和4年度		担当課	12 教育委員会教育振興課				
	事業主体 雄武町		関係係	5 保健福祉課				
	事業指標 町民1人あたり貸出冊数		ハード/ソフト 事業区分	8 保育所				
	事業目標 町民1人あたり貸出冊数10冊		関係例規・法令名	2 ソフト事業				
町民参加	有	読み聞かせ等におけるボランティアの活用	関係個別計画名	無				
町民協働	有			有 第9次社会教育中期計画、第3次子どもの読書活動推進計画				
全 体 計 画 内 容			令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容		
計 画 内 容	● 図書サービスの充実		令和元年度 事業内容 ・図書購入 2,500冊 ・ブックスタート ・配本、移動図書館 ・新図書館オープンに向けた プレイベント(絵本作家による ワークショップ、大人又は親子 を対象とした朗読会、愛称募 集事業)	令和2年度 事業内容 ・図書購入 3,500冊 ・視聴覚資料購入 200点 ・ブックスタート ・配本、移動図書館 ・新図書館オープン記念事業 (講演会、ワークショップ等) ・映画上映会、工作会等の各種 イベント	令和3年度 事業内容 ・図書購入 3,500冊 ・視聴覚資料購入 50点 ・ブックスタート ・配本、移動図書館 ・講演会、映画上映会、工作会 等の各種イベント	令和4年度 事業内容 ・図書購入 3,500冊 ・視聴覚資料購入 50点 ・ブックスタート ・配本、移動図書館 ・講演会、映画上映会、工作会 等の各種イベント ・図書館まつり		
	・図書購入							
	・ブックスタート							
	・配本、移動図書館							
	・講演会、映画上映会等の各種イベント							
計 画 事 業 費	事業費(千円)	37,851	4,380	10,372	7,300	7,730	8,069	
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	0						
	その他	0						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	37,851	4,380	10,372	7,300	7,730	8,069	
	国庫支出金	0	4,280	10,192	7,403	7,196	7,728	
	道支出金	0						
	地方債	0						
	その他	5,931						
関連事項	特定財源の名称	30,868	4,280	10,192	7,072	7,196	5,600	
	ふるさと応援基金繰入金 指定寄附金	【評価・実績】	(実施内容等) 図書・絵本購入(2,584冊) ブックスタート5回実施、29人に配付 配本～雄武小 年間2,800冊 配本～豊丘小 年間1,500冊 移動図書館 145人利用、493冊貸出 プレイベント(おはなしの会)の実施 ※事務事業評価結果 Bー継続/拡充	(実施内容等) 図書・絵本購入(4,321冊) ブックスタート2回実施、18人に配付 配本～雄武小 年間1,980冊 配本～豊丘小 年間900冊 移動図書館 171人利用、387冊貸出 映画上映会、工作会の実施 ※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持	(実施内容等) 図書・絵本購入(3,432冊) ブックスタート4回実施、31人に配付 配本～雄武小 年間2,820冊 配本～豊丘小 年間1,500冊 配本～雄武中 年間240冊 映画上映会、工作会の実施 ※事務事業評価結果 Aー継続/拡充	(実施内容等) 図書・絵本購入(3,966冊) ブックスタート3回実施、20人に配付 配本～雄武小 年間3,000冊 配本～雄武中 年間360冊 工作会の実施 図書館まつりの実施 ※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	町民1人あたり貸出冊数10冊	98%	101%	93%	96%
	後期計画への継続 (継続有り)		年度達成率	11%	38%	58%	77%	97%
			全体達成率					
	備考							
	備考							

事業名	読書促進事業	評価者 管理職 職氏名	評価者 作成者 職氏名	河原 学	令和4年度実施 令和5年度評価
		教育振興課長	図書業務係長	櫻井 輝久	

■事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	利用者(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
抱える課題やニーズ	資料の計画的な収集、企画展示、ワークショップ等のほか、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が延期されていた「図書館まつり」を開催したことにより、来館者数は増加したものの、貸出冊数については、目標値を達成することができなかった。	指標(指標計算式/解説) ① 図書購入冊数 目標年度 令和4年度 実績値 3,500冊 達成度 3,966冊 113.3 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	利用者のニーズに応じた資料の収集・提供及び、読書活動に関連する各種展示及びイベント等による読書の促進。	② 1人当たり貸出冊数 目標年度 令和4年度 実績値 10,00冊 達成度 7,26冊 72.6 %
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	町民の幅広いニーズに対応した資料の提供による読書活動の促進により、町民の生活向上及び地域の活性化を図る。	

① 図書購入(絵本含む)	図書購入冊数～3,966冊(目標値対比466冊の増、前年度対比534冊の増)
② 年間貸出	年間貸出冊数～30,309冊(前年度対比3,056冊の減)、年間貸出人数～5,268人(前年度対比231人の減)
③ 移動図書館・配本・ブックスタート・ 工作会等各種事業	配本～雄武小学校、雄武中学校を対象に計3,360冊を配本。 移動図書館～沢木小学校、共栄小学校を対象に実施。工作会～2回実施 各種展示会～29回実施 図書館まつり～ワークショップ等実施

■事業の評価(Check)

(1)事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして受当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)	
必要	☒ 義務的なもの
必要/概ね必要	☐ 全部
必要/概ね必要/課題あり	☐ 一部

地域の情報拠点として位置付けられる図書館において、蔵書を充実し図書館利用を促進することは、町民の生涯学習の推進のため必要であり、ひいてはまちづくりを担う人材の育成につながり、地域の活性化に寄与するものである。

(2)事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	1人あたり貸出冊数は目標達成に至っていないが、来館者数については増加していることから、ある程度の読書活動を推進できていると考える。
	有効/概ね有効/課題あり	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る

(3)事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	図書購入に係る経費は、図書館に対する町民ニーズに応えるための必要なコストであり、図書購入の際には町民ニーズを踏まえた選書や購入冊数等の精査を行っており、効率的に執行している。
	効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他

(4)事業の公平性

公平	判断の理由	図書館は町民の誰もが利用できる空間であるとともに、町民のニーズに応じた図書の整備を図っていることから、公平性は保たれている。
	公平/概ね公平/公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止	
---	--

■総合評価(A～D)

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
効果的かつ計画的に事業を実施し、計画的に資料を購入することができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
資料の計画的な購入と整理、企画展示の充実等を引き続き行い読書活動の促進を図る。 また、学校図書室に司書を派遣し、児童・生徒に対する読書環境の整備を行う。	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12040010

政策目標	2	【安心感の持てる福祉のまち・雄武】 ①保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育ての充実	事業優先度		A	
単位施策	3	経済的負担の軽減	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	学校給食子育て支援事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係		#N/A	
事業指標	支給対象者数		ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	全対象者への支給		関係例規・法令名	有	雄武町子育て支援学校給食費助成金交付要綱	
町民参加	無		関係個別計画名	無		
町民協働						

全体計画内容		平成 30 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計画内容	・児童生徒の保護者に対する学校給食費の全額助成	・学校給食費の助成 (小学生189人、中学生85人)	・学校給食費の助成 (小学生183人、中学生91人)	・学校給食費の助成 (小学生182人、中学生94人)	・学校給食費の助成 (小学生181人、中学生83人)
	事業費(千円)	70,834	13,690	14,880	13,962
	財源	国庫支出金 道支出金 地方債 その他			
	事業費	70,772	13,690	14,880	13,962
	一般財源	62	0		
	事業費(千円)	64,818	11,999	13,292	12,952
	財源	国庫支出金 道支出金 地方債 その他			
	事業費	64,623	11,999	13,200	12,850
	一般財源	195		92	102
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等) 助成世帯(保護者)数 181人	(実施内容等) 助成世帯(保護者)数 176人 児童生徒数 262人 (小学生173人、中学生89人)	(実施内容等) 助成世帯(保護者)数 167人 児童生徒数 252人 (小学生170人、中学生82人)
関連事項	ふるさと応援基金繰入金	(実施内容等)	助成世帯(保護者)数 181人	助成世帯(保護者)数 176人 児童生徒数 262人 (小学生173人、中学生89人)	助成世帯(保護者)数 167人 児童生徒数 252人 (小学生170人、中学生82人)
	【評価・実績】				
		※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	支給対象者数 274人	支給対象者数 274人	支給対象者数 276人	支給対象者全員
	後期計画への継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率 全体達成率 備考	88% 35%	89% 54%	94% 73%

事業名	学校給食子育て支援事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校給食係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小中学校に通い、かつ町内に住所を有し、かつ、助成対象となる児童生徒の保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	助成対象世帯(保護者)数、児童生徒数
抱える課題やニーズ	教育の分野における子育て支援施策の充実	指標(指標計算式/解説)	目 標 年 度 目 標 値 値 令和4 年度 167 人
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学校給食費を助成することにより、保護者負担の実質無償化	① 助成対象世帯(保護者)数	実 績 値 167 人
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	各家庭おける、安心して子育てできる環境の構築の一助	② 児童生徒数	達 成 度 100.0 %
	学校給食費の全額助成	目 標 年 度 目 標 値 値 令和4 年度 252 人	目 標 年 度 目 標 値 値 令和4 年度 252 人
内容(どのような手段で行ったか)	保護者が負担すべき学校給食費の全額を助成し、保護者の経済的な負担軽減を図った。	達 成 度 100.0 %	達 成 度 100.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☐	義務的なもの	総合計画の基本施策において子育て支援の充実と「学校教育の充実」が掲げられていることから、町の方針に合致する事業である。
必要/概ね必要	☐	全部	
必要あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	全ての助成対象者に助成したことから、各家庭における教育費の負担軽減に寄与できたものと判断します。
有効/概ね有効	☐	達成	
有効あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	☐	判断の理由	学校給食費の保護者負担金と同額の助成であり、効果は得られたものと判断します。また、学校の協力を得て助成事務を進めることができたことから、過度なコストは生じておらず、効率的であったものと判断します。
効率的/概ね効率的	☐	事業費抑制	
効率的あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	子育て支援の施策は、人口減少問題に対する一助となり、結果、当事者のみならず地域の活性化などにも繋がることから、公平であると判断します。
公平/概ね公平	☐	受益者負担がある	
公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
滞りなく事業を実施し、安心して子育てできる環境づくりに寄与できたことから、目標は達成できたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
町の方針に合致する事業であることから、継続することが望ましいと考えます。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12040020

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名		学校給食調理業務委託事業	見直し年度			
事業期間		平成30年度～令和4年度	担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体		雄武町	関係		#N/A	
事業指標		安心・安全な学校給食の提供体制維持	ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
事業目標		正規調理員数	関係例規・法令名	有	学校給食法	
町民参加		無	関係個別計画名	無		
町民協働						

		全 事 業 内 容	平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	・安心・安全な学校給食の供給体制の維持を図るため、調理業務の委託を行う。		・学校給食調理業務の委託 (長期継続契約 1/3年目)	・学校給食調理業務の委託 (長期継続契約 2/3年目)	・学校給食調理業務の委託 (長期継続契約 3/3年目)	・学校給食調理業務の委託 (長期継続契約 1/3年目)	・学校給食調理業務の委託 (長期継続契約 2/3年目)
	事 業 費 (千円)	85,036	15,630	15,775	15,920	19,000	18,711
計 画 事 業 費	財 源	国庫支出金 道支出金 地方債 内 容 そ の 他					
	財 源	国庫支出金 道支出金 地方債 内 容 そ の 他					
実 績 事 業 費	事 業 費 (千円)	85,036 84,745	15,630 15,630	15,775 15,774	15,920 15,919	19,000 18,711	18,711 18,711
	財 源	国庫支出金 道支出金 地方債 内 容 そ の 他					
関 連 事 項	財 源	国庫支出金 道支出金 地方債 内 容 そ の 他					
	財 源	国庫支出金 道支出金 地方債 内 容 そ の 他					
【 評 価 ・ 実 績 】	特定財源の名称	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件	(実施内容等) 学校給食調理業務の委託 正規調理員 5人 事故発生件数 0件
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	第5期計画からの継続 (継続有り)	正規模調理員 5人、事故発生 0件	正規模調理員 5人、事故発生 0件	正規模調理員 5人、事故発生 0件	正規模調理員 5人、事故発生 0件	正規模調理員 5人、事故発生 0件	正規模調理員 5人、事故発生 0件
	後期計画への継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率 全体達成率	100% 18%	100% 37%	100% 56%	98% 78%	100% 100%
		備考欄					

事業名	学校給食調理業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校給食係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小中学校に在籍する児童生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学校給食衛生管理基準に基づく安全・安心な学校給食の供給
抱える課題やニーズ	行政事務の効率化及び給食の安定供給	指標(指標計算式／解説)	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	委託による行政事務の効率化するとともに、安定した給食の供給体制の構築	① 正規調理員の数	目標年度 令和4年度 目標値 5人 実績値 5人
その結果、どのような成果を 実現したか ※成果＝目的	行政事務の軽減を図るとともに、給食の安定供給	② 事故発生件数	達成度 100.0 % 目標年度 令和4年度 目標値 0件 実績値 0件
内容(どのような手段で何を 行ったか)	民間委託	達成度	100.0 %
	委託契約(長期継続契約)により、給食提供(調理業務)を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原価しによる対応可能性)

必要	☐	業務的なもの	学校給食は、学校設置者の責任において供給すべきものであることから、行政が担う必要がある。
必要／概ね必要	☐	全部	
必要あり	☐	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	民間企業が持つノウハウや専門性、柔軟性が発揮されたことにより、給食の供給体制の構築が図られことから、期待した効果が得られたものと判断します。
有効／概ね有効	☐	達成	
有効あり	☐	ほぼ達成	
有効／課題あり	☐	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	☒	判断の理由	長期継続契約に発注することによりコストを抑制するとともに、民間ノウハウにより調理員の確保もでき安定供給ができたことから、求めている効果が得られ、効率性についても発揮されたものと判断します。
効率的／概ね効率的	☐	事業費抑制	
効率的あり	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☐	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	町内全小中学校の児童生徒に対し安定した給食を供給できたことから、公平であると判断します。
公平／概ね公平	☐	受益者負担がある	
公平でない	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
	☒	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
人材の確保など委託先の努力もあって、安心・安全な学校給食を供給する体制が構築され、特に問題もなかったことから、目標は達成されたものと判断します。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持	
委託によって現在の安定した給食の供給体制を維持できていることから、事業の継続は必須であると考えます。	

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又はは縮小又はは統合又はは内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12040040

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	学校給食食育推進事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係		#N/A	
事業指標	学校給食に活用した地場産食材数				#N/A	
事業目標	学校給食に活用した地場産食材 4種類		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	食育基本法	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 内 容		平成 30 年度 事業 内 容	令和 2 年度 事業 内 容	令和 3 年度 事業 内 容	令和 4 年度 事業 内 容
計 画 内 容	・地場産食材の学校給食への活用 ホタテ、マス、サケ、チーズ、その他	・地場産食材の学校給食への活用	・地場産食材の学校給食への活用	・地場産食材の学校給食への活用	・地場産食材の学校給食への活用
	事業費(千円)	100	100	100	500
	国庫支出金	565			300
	道支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	一般財源	735	100	100	200
	事業費(千円)	1,297	99	100	498
	国庫支出金	500			300
	道支出金	0			
実 績	国庫支出金	0			
	地方債	0			
	その他	0			
	一般財源	797	99	100	198
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	地場産食材活用 6種類 14回提供	地場産食材活用 6種類 17回提供	地場産食材活用 6種類 28回提供	地場産食材活用 6種類 11回提供 (購入分) 14回提供 (無償提供分)
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/拡充	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持
	年度目標値	活用した地場産食材 4種類 100%	活用した地場産食材 4種類 99%	活用した地場産食材 4種類 100%	活用した地場産食材 4種類 100%
	年度達成率	100%	99%	100%	100%
	全体達成率	8%	15%	23%	61%
関連事項		備考			

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書

様式1

No. 12040050

政策目標	3	【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】 ①教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	学校給食センター設備等更新事業					
事業期間	平成30年度～令和4年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	各種設備・備品の整備					
事業目標	各種設備・備品の整備					
町民参加	無					
町民協働	無					

全体計画内容		平成30年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和2年度 事業内容	令和3年度 事業内容	令和4年度 事業内容
計画内容	学校給食センターの設備・備品のうち、老朽化したものについて適宜更新を行う。	・米飯用食缶更新 13個	・食器用食缶更新 16個 ・トレー用かご更新 20個 ・保温庫更新 2台 (豊丘小・共栄小)	・ガス警報機更新 4台 ・湯食用食缶更新 11個 ・移動台更新 2台 ・小皿更新 400枚 ・栄養教諭用パソコン 1台	・食器更新(角仕切皿) 500個 ・食器更新(うどん丼) 500個 ・食器箱(中学校用) 7個 洗濯機 2台	
	事業費(千円)	5,432	1,200	1,220	1,122	1,351
	財源					
	国庫支出金	0				
実績事業費	事業費(千円)	5,432	539	1,200	1,122	1,351
	財源					
	国庫支出金	142				
	国庫支出金	0				
関連事項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	食器用食缶更新 16個 トレー用かご更新 20個 保温庫更新 2台 (豊丘小・共栄小)	食器用食缶更新 16個 トレー用かご更新 20個 保温庫更新 2台 (豊丘小・共栄小)	ガス警報機更新 4台 湯食用食缶更新 11個 移動台更新 2台 小皿更新 400枚 栄養教諭用パソコン 1台 中学校用食缶等 7個 ※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	食器更新(角仕切皿) 500個 食器更新(うどん丼) 500個 食器箱更新 7箱 洗濯機更新 2台 ※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持	食器更新(深皿) 500個 移動台更新 1台 食器箱更新 7箱 洗濯機更新 2台 ※事務事業評価結果 Aー継続／現状維持
	年度目標値	92%	92%	111%	99%	100%
	年度達成率	9%	30%	55%	75%	100%
	後期計画への継続	(継続有り)	(継続有り)	(継続有り)	(継続有り)	(継続有り)

事業名	学校給食センター設備等更新事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	河原 学
		評価者 作成者 職氏名	学校給食係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

事業名	学校給食センター職員及び調理員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	更新した設備等の数量
抱える課題やニーズ	現在の学校給食センターは平成26年度完成の施設であることから、目立った損傷や劣化は無いが、耐用年数が経過した備品や旧センターから引き続き使用している備品等は老朽化が進んでいる。	指標(指標計算式/解説) ① 更新備品数	目標年度 令和4年度 1式 実績年度 1式 達成度 100.0 %
どのような状態になることを目指したのか(意図)	備品の更新や施設修繕等により、学校給食を安心・安全かつ安定して供給するために必要な環境の維持。	②	目標年度 実績年度 達成度
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	健全な学校給食の提供環境の維持、向上。		目標年度 実績年度 達成度
内容(どのような手段で何を行ったか)	備品の更新 老朽化していた食器(深皿)、移動台、洗濯機を更新した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や原直しによる対応可能性)

必要	☐	事務的なもの	安心・安全で安定した学校給食を供給することは学校設置者である町の責任であり、設備等の老朽化による給食停止等を防止するため、備品等の更新や修繕は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	☐ 全部 ☐ 一部		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	☒	設定した目標値の達成状況	老朽化した備品等を更新することで、安全で安定した学校給食の供給ができた。
有効/概ね有効/課題あり	☐ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	☒	判断の理由	購入備品の選定から事業費の抑制に努め、予算内で必要とする数量を購入できた。
効率的/概ね効率的/課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他		

(4)事務事業の公平性

公平	☐	判断の理由	安心・安全で安定した学校給食を供給することは学校設置者である町の責任であり、給食の供給環境を維持するための備品の更新であることから、公平と判断した。
公平/概ね公平/公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--	--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画とおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
老朽化した備品等を更新したことにより、安心・安全な学校給食を供給する環境を整えることができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	
次年度以降も老朽化している備品や設備の更新及び修繕等を計画的に推進していく。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

令和５年度
雄武町教育委員会の活動状況に関する
点検・評価報告書

令和６年３月

雄武町教育委員会